

市民の食育に関するアンケート調査 結果

【調査の目的】

ふなばし健やかプラン21（第2次）後期計画策定を機に、分野別計画「食生活」に位置付けられている「食育推進計画」の充実を図るために、市民の食育に関する意識を把握し今後の食育推進のための基礎資料とする。

【調査期間】

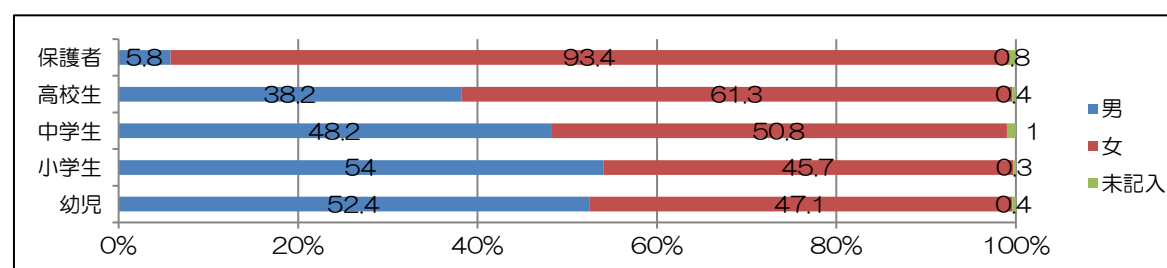
令和元年7月1日（月）～令和元年7月27日（木）

【調査の対象及び調査件数】

対象		件数	回収数	回収率
幼児（5歳児）	市内幼稚園5施設	321	225	70.1%
小学生（5年生）	市立小学校3校	364	324	89.0%
中学生（2年生）	市立中学校2校	753	699	92.8%
高校生（2年生）	市立船橋高等学校	244	225	92.2%
一般（幼稚園、小学校、中学校の保護者）		1,438	1,060	73.7%
		3,120	2,533	

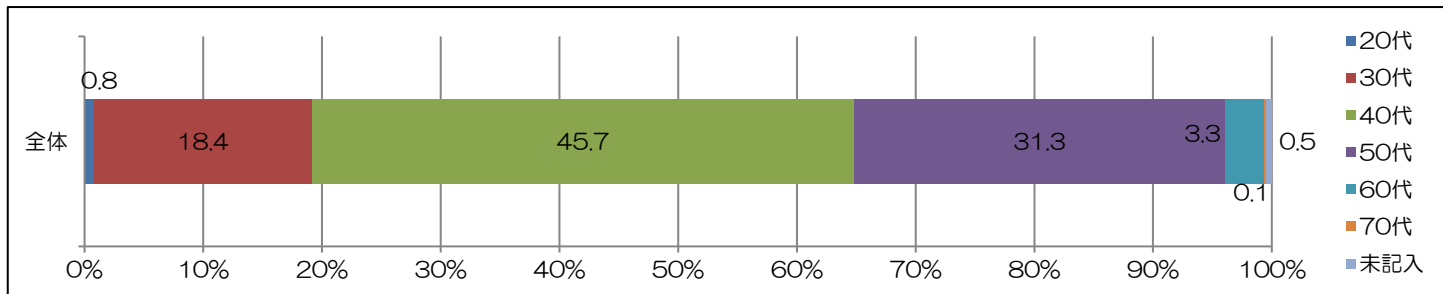
【問1】 性別

	男	女	未記入
保護者	5.8 (62人)	93.4 (990人)	0.8 (8人)
高校生	38.2 (86人)	61.3 (138人)	0.4 (1人)
中学生	48.2 (337人)	50.8 (355人)	1 (7人)
小学生	54 (175人)	45.7 (148人)	0.3 (1人)
幼児	52.4 (118人)	47.1 (106人)	0.4 (1人)



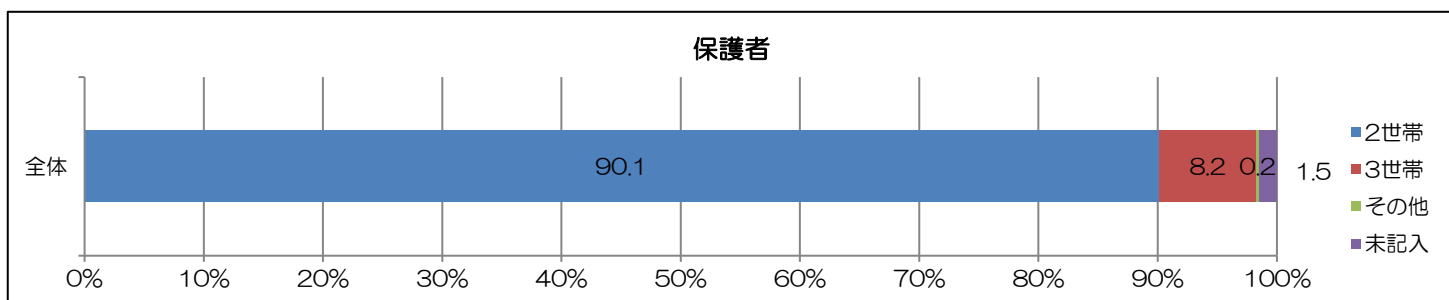
【問1】 年齢 保護者アンケートより

年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	未記入
人数	0.8 (8人)	18.4 (195人)	45.7 (484人)	31.3 (332人)	3.3 (35人)	0.1 (1人)	0.5 (5人)



【問1】 世帯構成 保護者アンケートより %

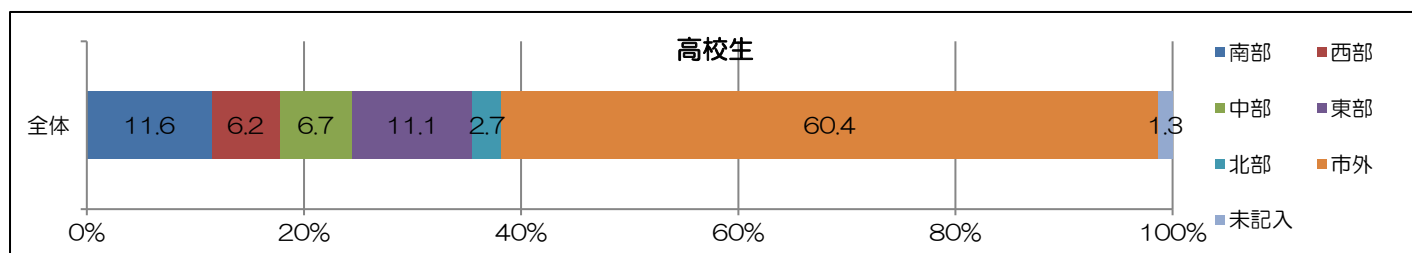
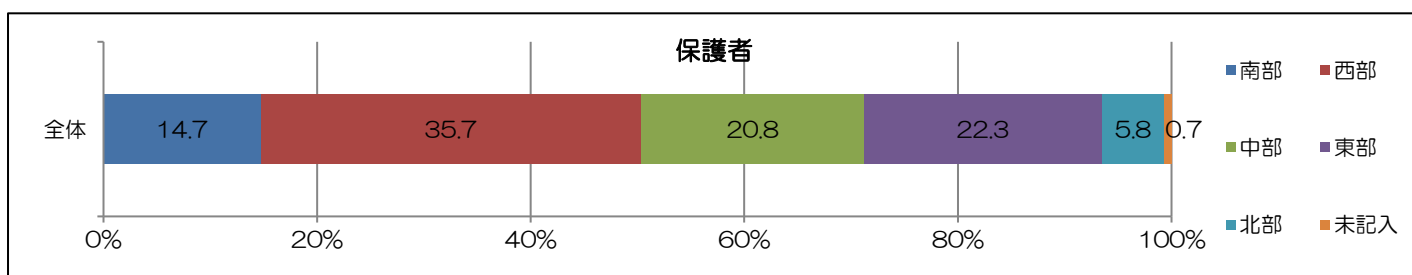
構成	2世帯	3世帯	その他	未記入
人数	90.1 (955人)	8.2 (87人)	0.2 (2人)	1.5 (16人)



【問2】 住んでいる地区 %

	保護者 (幼稚園、小学校、中学校)	高等学校
南部	14.7 (156人)	11.6 (26人)
西部	35.7 (378人)	6.2 (14人)
中部	20.8 (221人)	6.7 (15人)
東部	22.3 (236人)	11.1 (25人)
北部	5.8 (62人)	2.7 (6人)
市外	—	60.4 (136人)
未記入	0.7 (7人)	1.3 (3人)

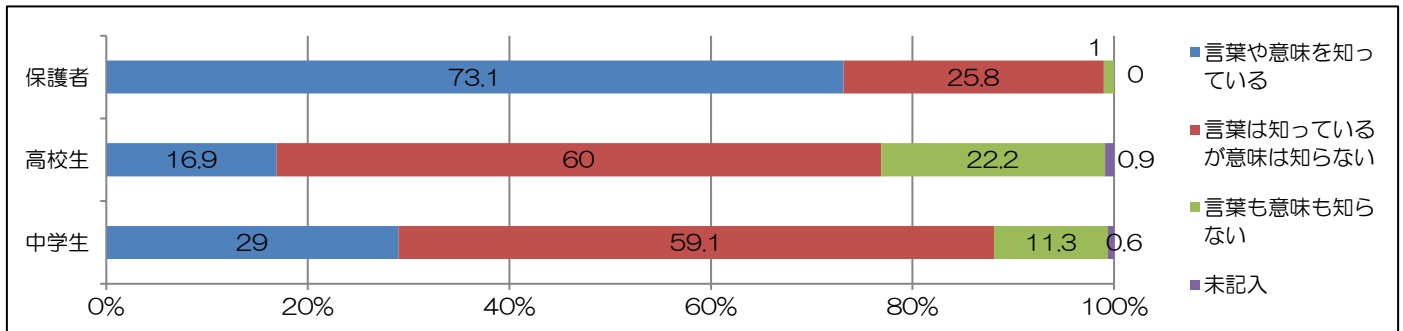
高校生(市立船橋高等学校)は、市外在住の割合が60%となっている。



食育について

【問3】 あなたは「食育」という言葉や意味を知っていますか。(〇印はひとつ) %

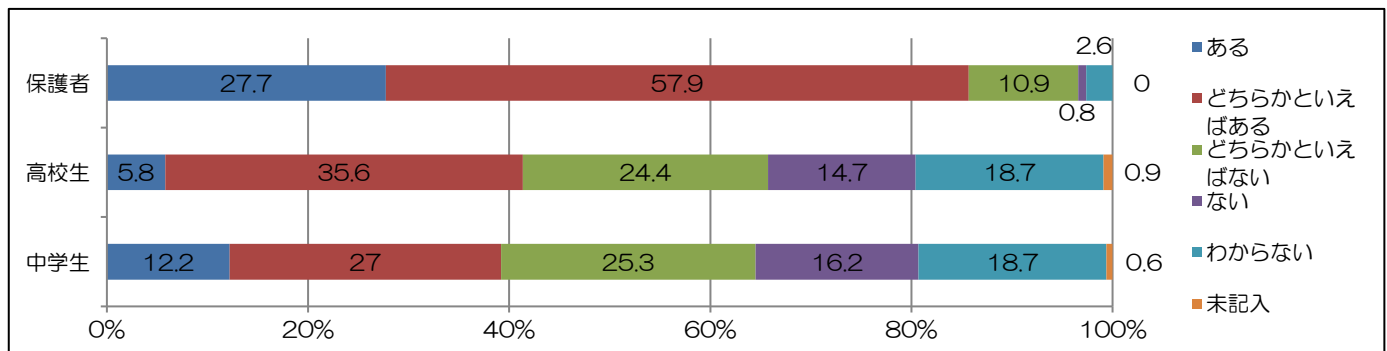
	言葉や意味を知っている	言葉は知っているが意味は知らない	言葉も意味も知らない	未記入
保護者	73.1 (775人)	25.8 (274人)	1 (11人)	0
高校生	16.9 (38人)	60 (135人)	22.2 (50人)	0.9 (2人)
中学生	29 (203人)	59.1 (413人)	11.3 (79人)	0.6 (4人)



船橋市では令和元年度に初めて「食育アンケート」を実施した。「食育」という言葉や意味を知っている人は、保護者が73.1%。高校生16.9%。中学生29%であった。保護者は幼児・小学生・中学生の保護者であったため意識が高かったと思われる。中学生・高校生への食育の理解、関心を深める必要がある。

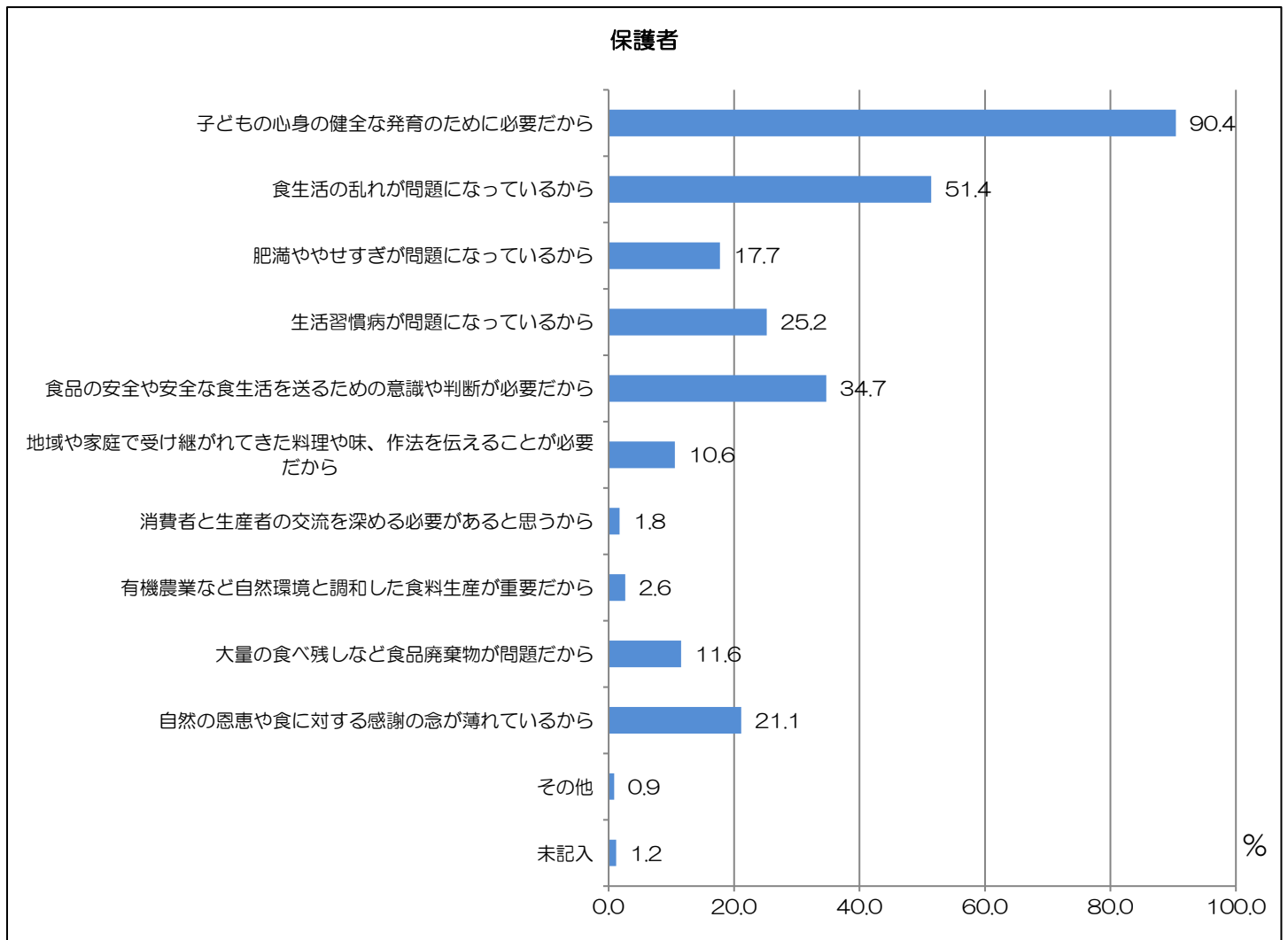
【問4】 あなたは「食育」に関心がありますか。(〇印はひとつ) %

	ある	どちらかといえばある	どちらかといえばない	ない	わからない	未記入
保護者	27.7 (294人)	57.9 (614人)	10.9 (116人)	0.8 (8人)	2.6 (28人)	0
高校生	5.8 (13人)	35.6 (80人)	24.4 (55人)	14.7 (33人)	18.7 (42人)	0.9 (2人)
中学生	12.2 (85人)	27 (189人)	25.3 (177人)	16.2 (113人)	18.7 (131人)	0.6 (4人)

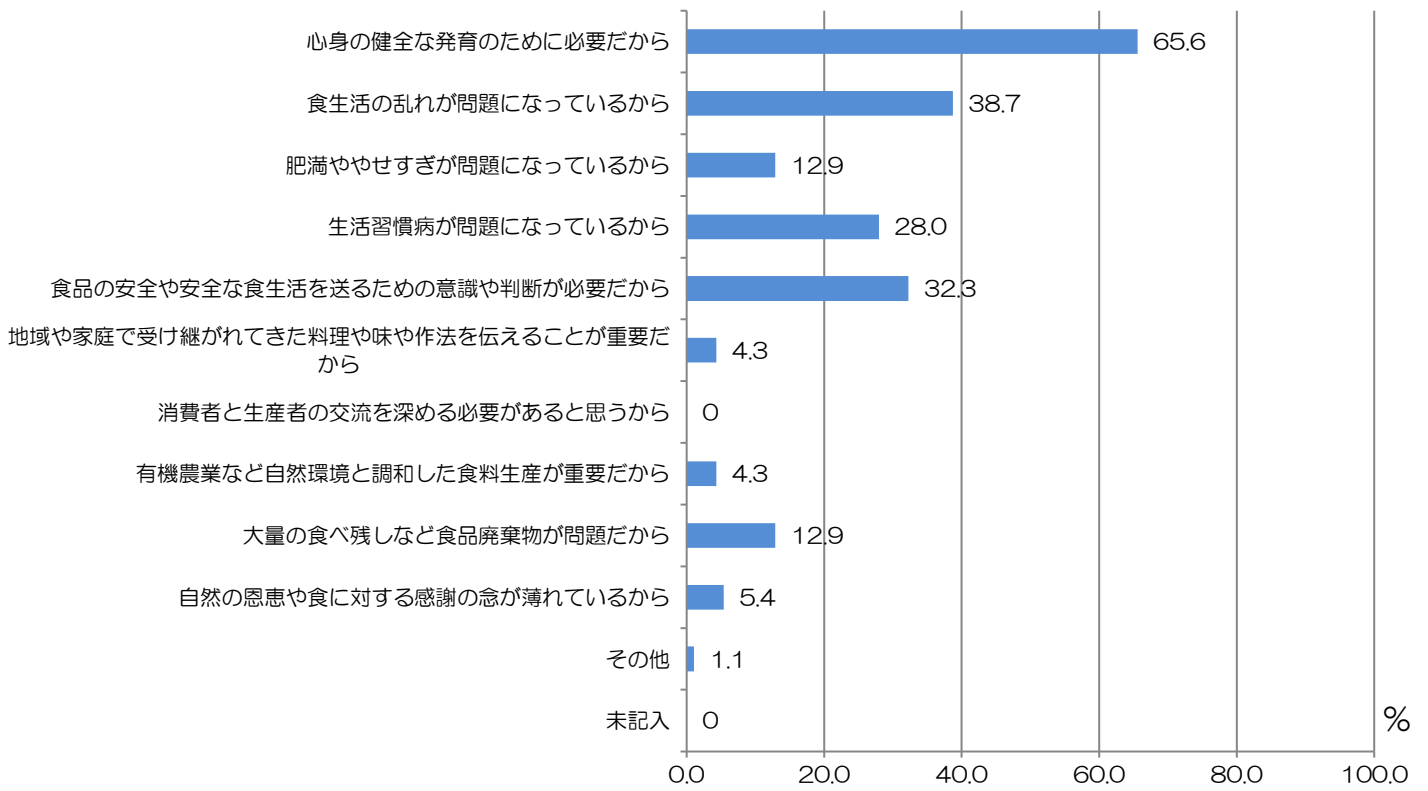


食育に関心がある保護者は 85.6%。国の目標値は 90%。「ある」「どちらかといえばある」と答えた中学生は 39.2%。高校生は 41.4%と低い。特に高校生で「ある」と回答した者は 5.8%と非常に低い。食を楽しみ体験しながら望ましい食生活を身につける過程がより重要となる。

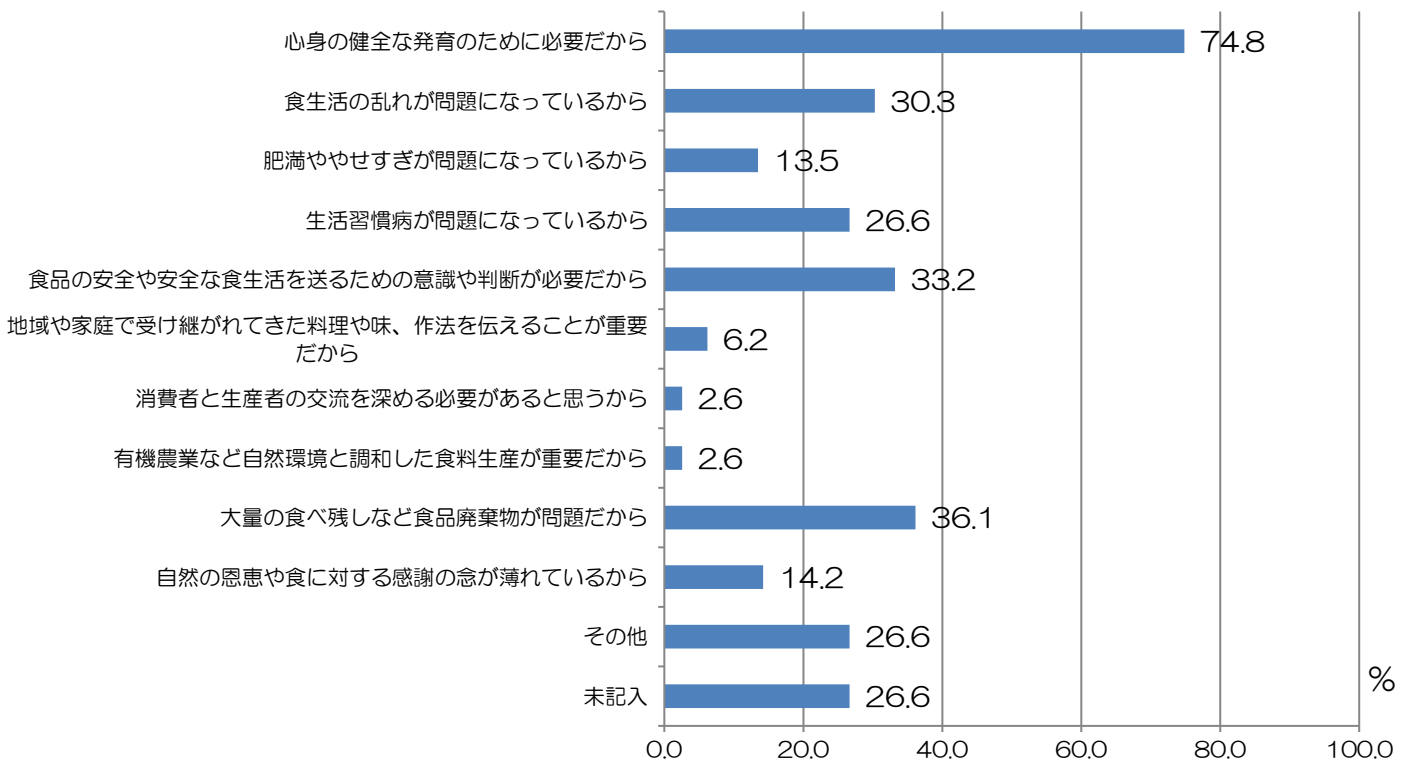
【問5】 問4で「1.2」と回答した方にお聞きします。あなたが「食育」に関心がある理由は何ですか。以下から3つまで選んでください。 ※小学生、中学生は問3。中学生、高校生は問6。



高校生



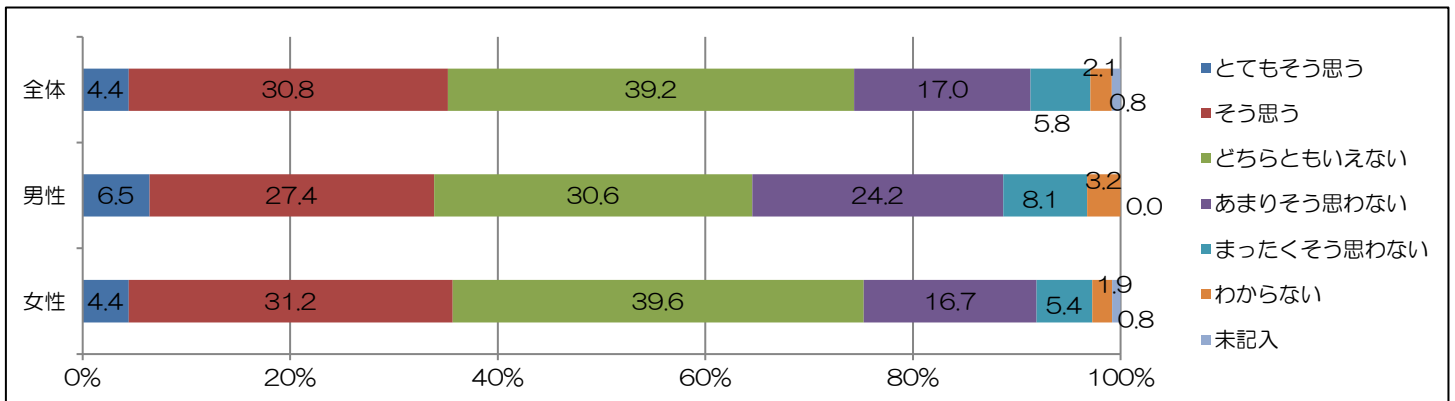
中学生



食生活について

【問6】 あなたは、地域や所属コミュニティ（職場等）での食事会等の機会があれば参加したいと思いますか。
（○印はひとつ） %

	とてもそう思う	そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全くそう思わない	わからない	未記入
全体	4.4 (47人)	30.8 (326人)	39.2 (415人)	17.0 (180人)	5.8 (61人)	2.1 (22人)	0.8 (9人)
男性	6.5 (4人)	27.4 (17人)	30.6 (19人)	24.2 (15人)	8.1 (5人)	3.2 (2人)	0
女性	4.4 (44人)	31.2 (309人)	39.6 (392人)	16.7 (165人)	5.4 (53人)	1.9 (19人)	0.8 (8人)

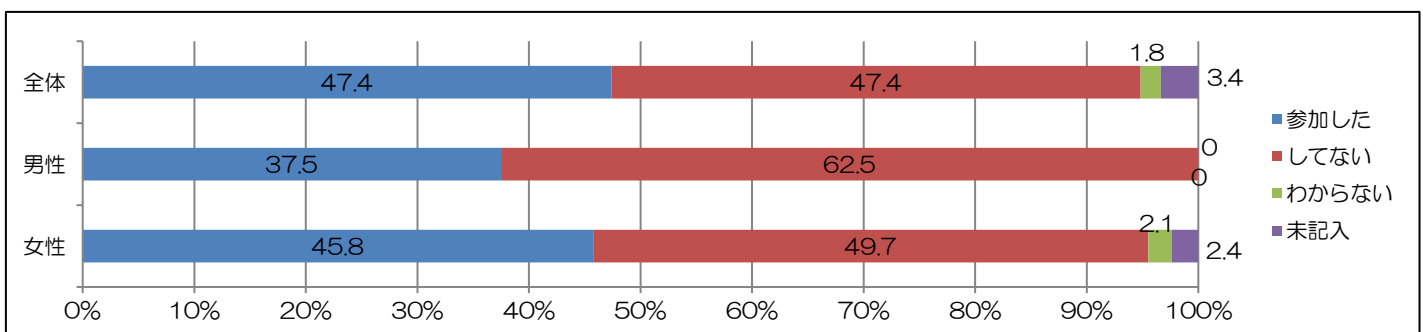


地域の所属コミュニティ等での食事会等の機会に参加したいと思う人は 35.2%。国が平成 29 年に実施した意識調査報告では 47.2%であった。この度の食育アンケート対象（保護者）は、幼児・小学生・中学生の保護者に限定したため低い値となったと想定される。

【問7】 問6で「1.2」と回答した方にお聞きします。

あなたは、過去1年間に地域や所属コミュニティでの食事会等に参加しましたか（○印は1つ） %

	参加した	参加していない	わからない	未記入
全体	47.4 (183人)	47.4 (183人)	1.8 (7人)	3.4 (13人)
男性	37.5 (9人)	62.5 (15人)	0	0
女性	45.8 (173人)	49.7 (188人)	2.1 (8人)	2.4 (9人)



国が平成 29 年に実施した意識調査結果では 72.6%で目標値 70%を達成しているが、この度実施した食育アンケートでは 47.4%と低かった。幼児・小学生・中学生の保護者に限定した調査であったことが影響していると想定される。

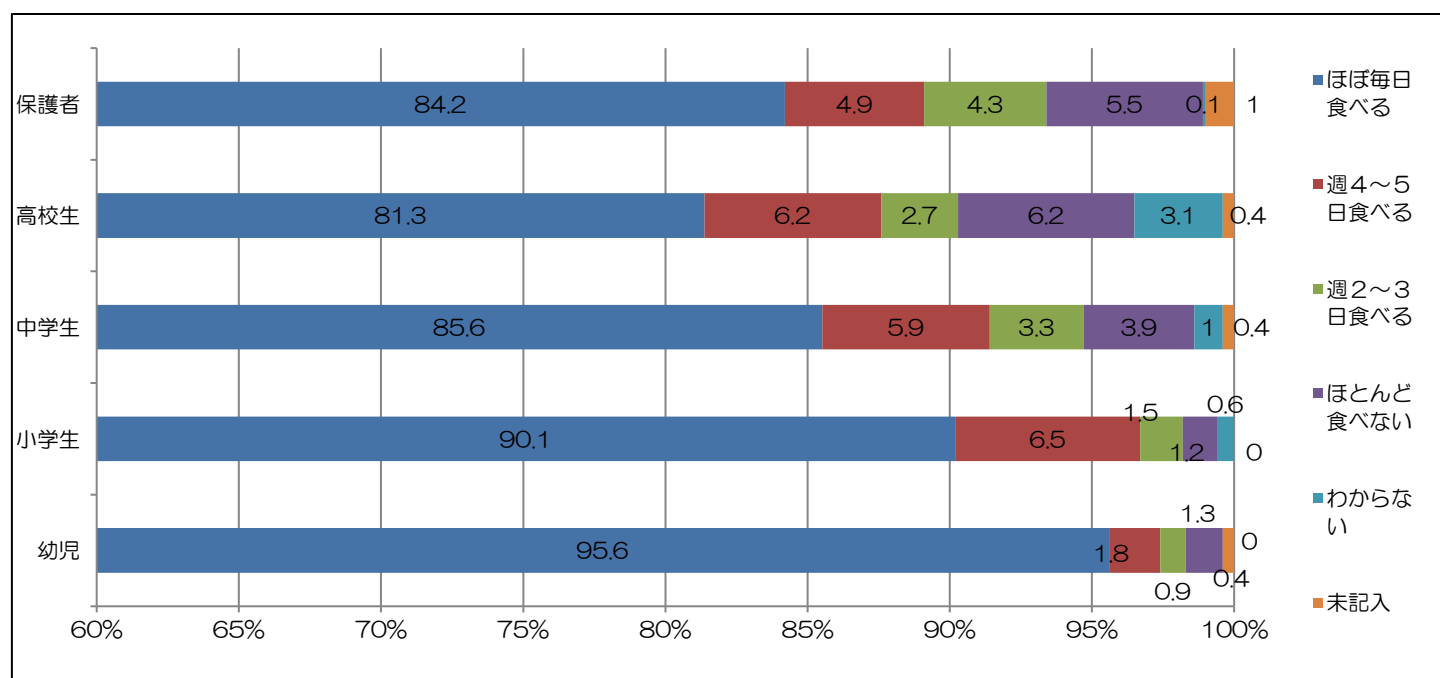
【問8】あなたは、普段、朝食を食べますか。(○印は1つ)

※高校生・中学生は問6

※小学生・幼児は問3

%

	ほぼ毎日食べる	週4～5日食べる	週2～3日食べる	ほとんど食べない	わからない	未記入
保護者	84.2 (892 人)	4.9 (52 人)	4.3 (46 人)	5.5 (58 人)	0.1 (1 人)	1 (11 人)
高校生	81.3 (183 人)	6.2 (14 人)	2.7 (6 人)	6.2 (14 人)	3.1 (7 人)	0.4 (1 人)
中学生	85.6 (598 人)	5.9 (41 人)	3.3 (23 人)	3.9 (27 人)	1 (7 人)	0.4 (3 人)
小学生	90.1 (292 人)	6.5 (21 人)	1.5 (5 人)	1.2 (4 人)	0.6 (2 人)	0
幼児	95.6 (215 人)	1.8 (4 人)	0.9 (2 人)	1.3 (3 人)	0	0.4 (1 人)



健やかプラン21では、「朝食を4～5日以上食べる」目標は高校生92%。中学生96%としているが、平成30年の市民意識調査結果では、高校生87.7%、中学生90.6%で達成していない。中学生では、策定時の数(92.5%)を下回る状況となった。

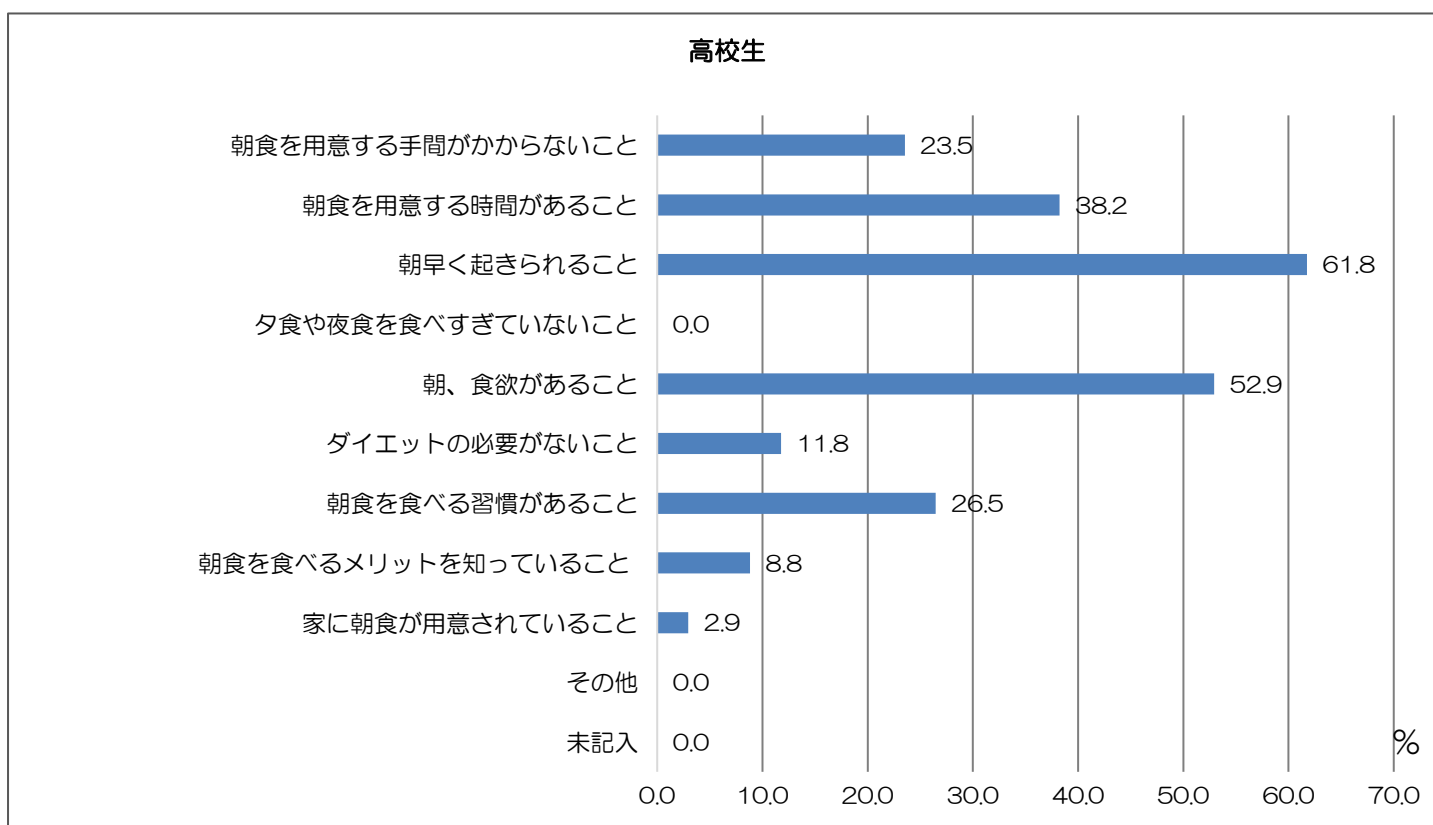
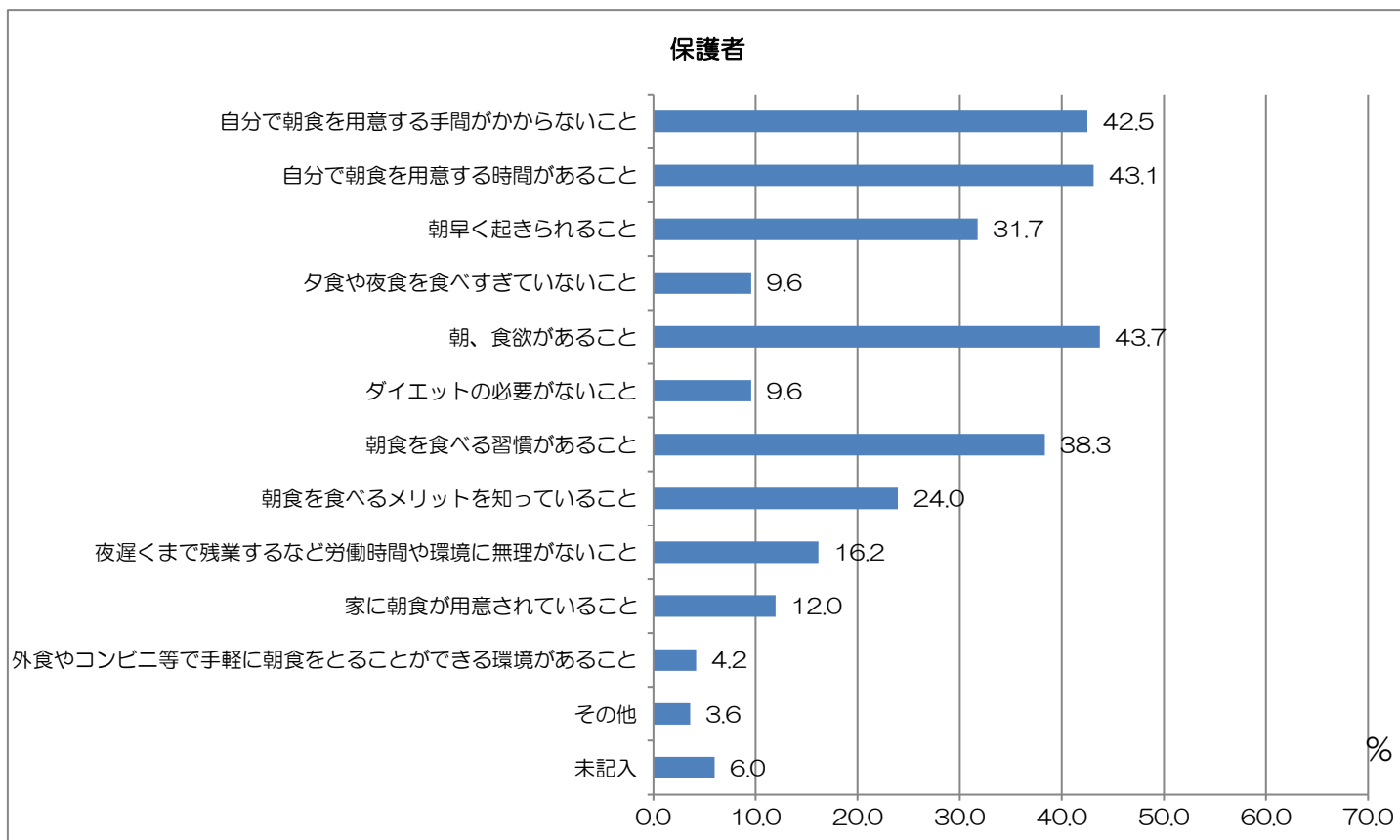
この度の食育アンケートでも、高校生87.5%、中学生91.5%と健やかプラン21市民意識調査結果と同様の結果となった。

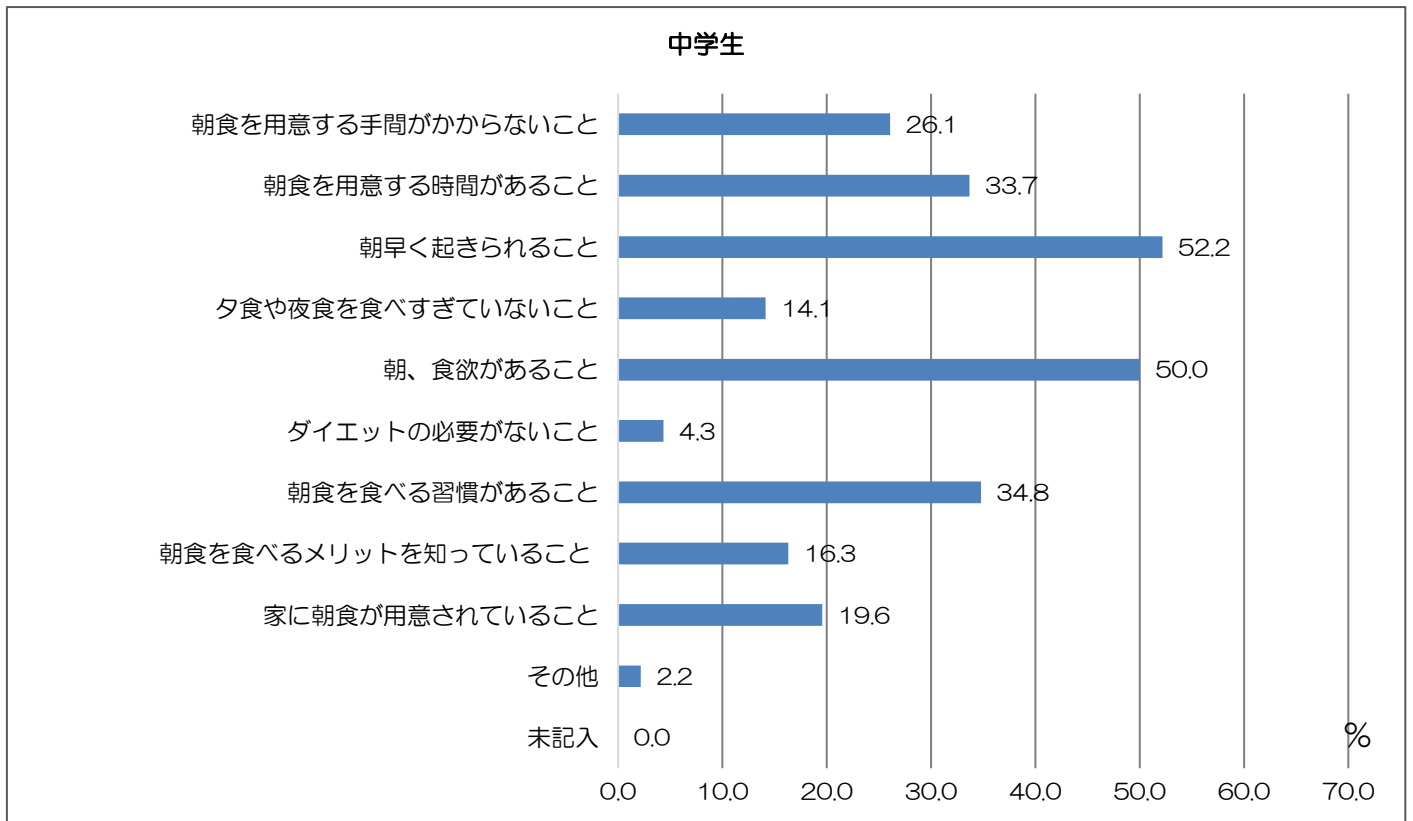
小学生では、朝食を毎日食べる習慣がない者(「週2～3日食べる」「ほとんど食べない」)の割合が、県の調査策定時2%より高く3.4%であった。幼児では、食育アンケートで2.6%であった。

国、県、健やかプラン共に朝食欠食率0%を目標としているため、引き続き取り組みが必要である。

【問9】問8で「2.3.4」と回答した方にお聞きします。

あなたが、朝食を食べるためには、どのようなことが必要だと思いますか。当てはまるものをいくつでも選んでください。 ※高校生・中学生は問7 ※小学生・幼児は問4





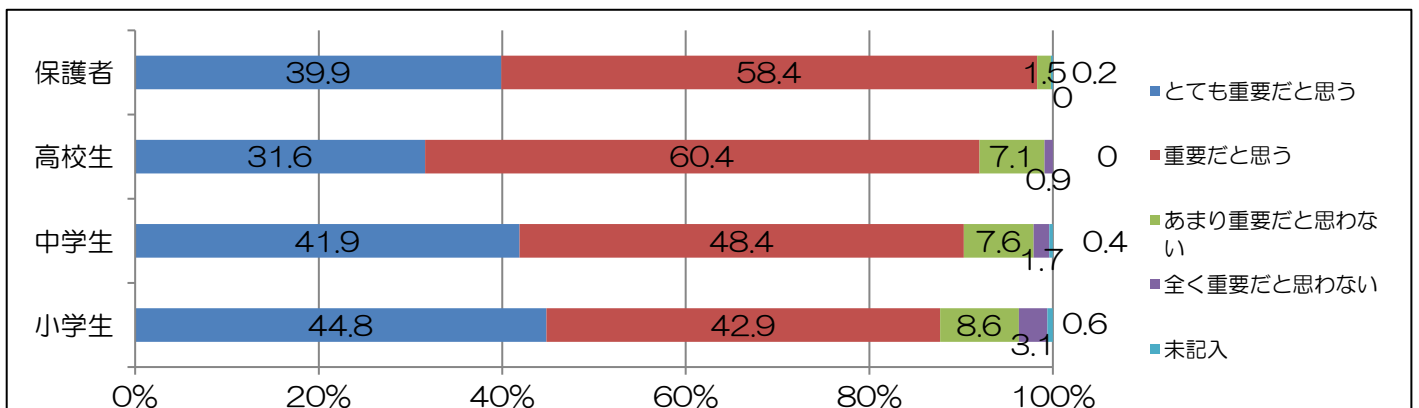
朝食を食べるためには「朝食を用意する手間がかからないこと」「朝早く起きられること」「朝食欲があること」などが多かった。多様な生活スタイルがある中で、短時間で無理のない食事を自ら行うことが必要である。

【問10】 あなたは、ゆっくりよく噛んで食べることを重要だと思いませんか。(〇印はひとつ)

※小学生は問6。中学生、高校生は問9。

%

	とても重要だと思 う	重要だと思 う	あまり重要だと思 わない	全く重要だと思 わない	未記入
保護者	39.9 (423人)	58.4 (619人)	1.5 (16人)	0	0.2 (2人)
高校生	31.6 (71人)	60.4 (136人)	7.1 (16人)	0.9 (2人)	0
中学生	41.9 (293人)	48.4 (338人)	7.6 (53人)	1.7 (12人)	0.4 (3人)
小学生	44.8 (145人)	42.9 (139人)	8.6 (28人)	3.1 (10人)	0.6 (2人)

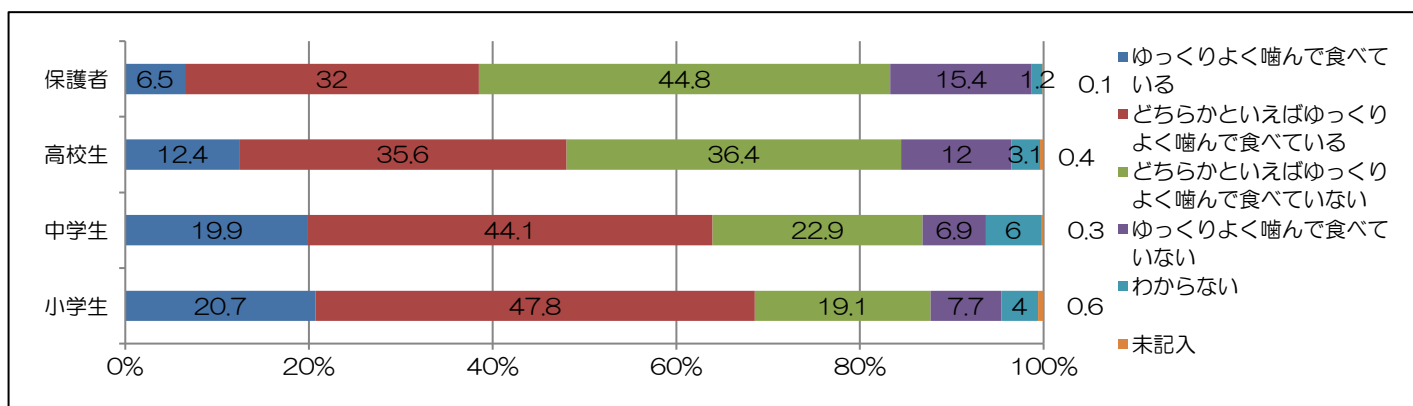


【問11】 普段からゆっくりよく噛んで食べていますか。(〇印はひとつ)

※小学生は問7。中学生、高校生は問10。

%

	ゆっくりよく噛んで食べている	どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている	どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べていない	ゆっくりよく噛んで食べていない	わからない	未記入
保護者	6.5 (69人)	32 (339人)	44.8 (475人)	15.4 (163人)	1.2 (13人)	0.1 (1人)
高校生	12.4 (28人)	35.6 (80人)	36.4 (82人)	12 (27人)	3.1 (7人)	0.4 (1人)
中学生	19.9 (139人)	44.1 (308人)	22.9 (160人)	6.9 (48人)	6 (42人)	0.3 (2人)
小学生	20.7 (67人)	47.8 (155人)	19.1 (62人)	7.7 (25人)	4 (13人)	0.6 (2人)

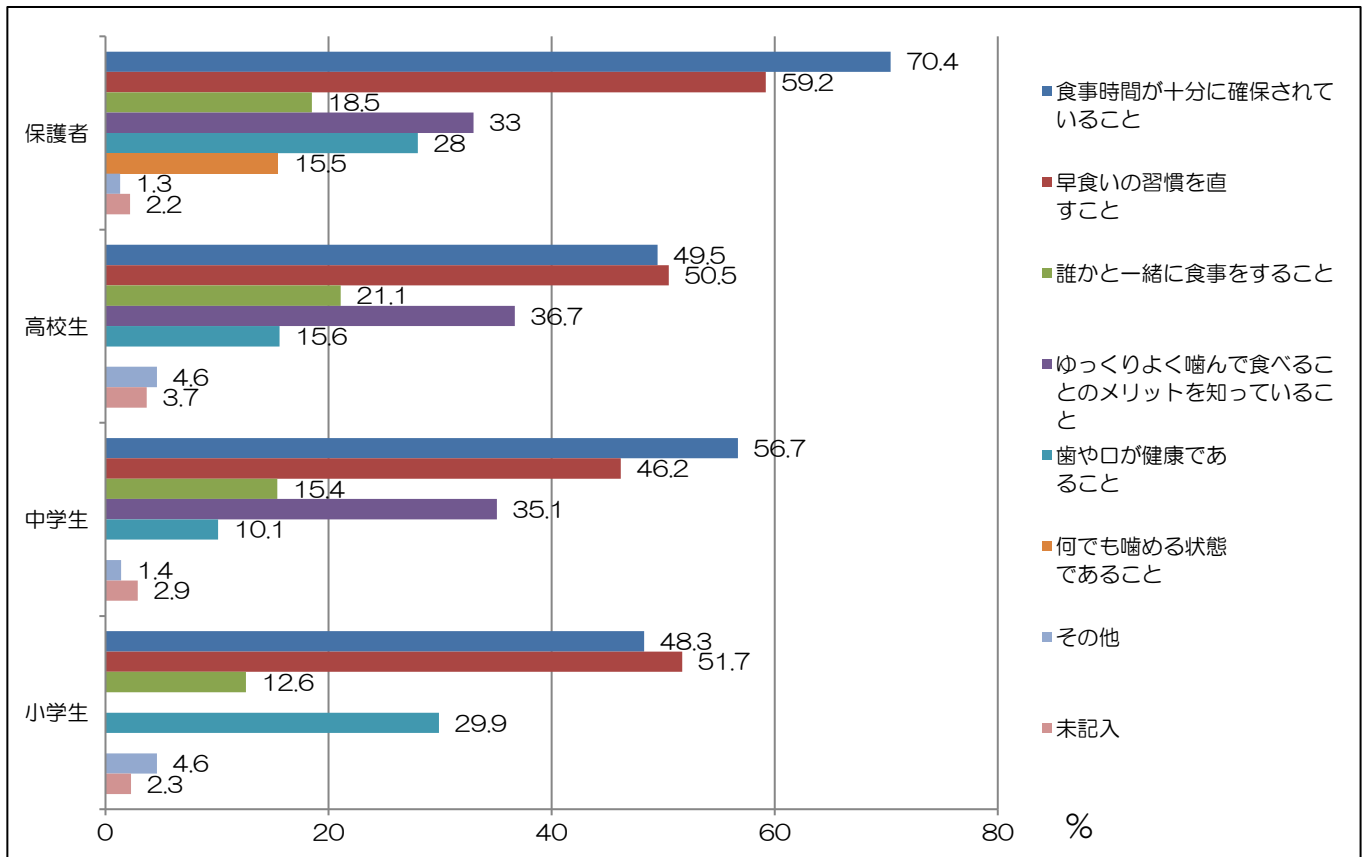


各年代ともに、「ゆっくりよく噛んで食べること」は重要だと思っているが、普段からゆっくりよく噛んで食べている人は少ない状況である。また、年代が上がるほどゆっくりよく噛んで食べている人の割合は減少傾向となっている。

【問12】問11で「3,4」と回答した方にお聞きします。

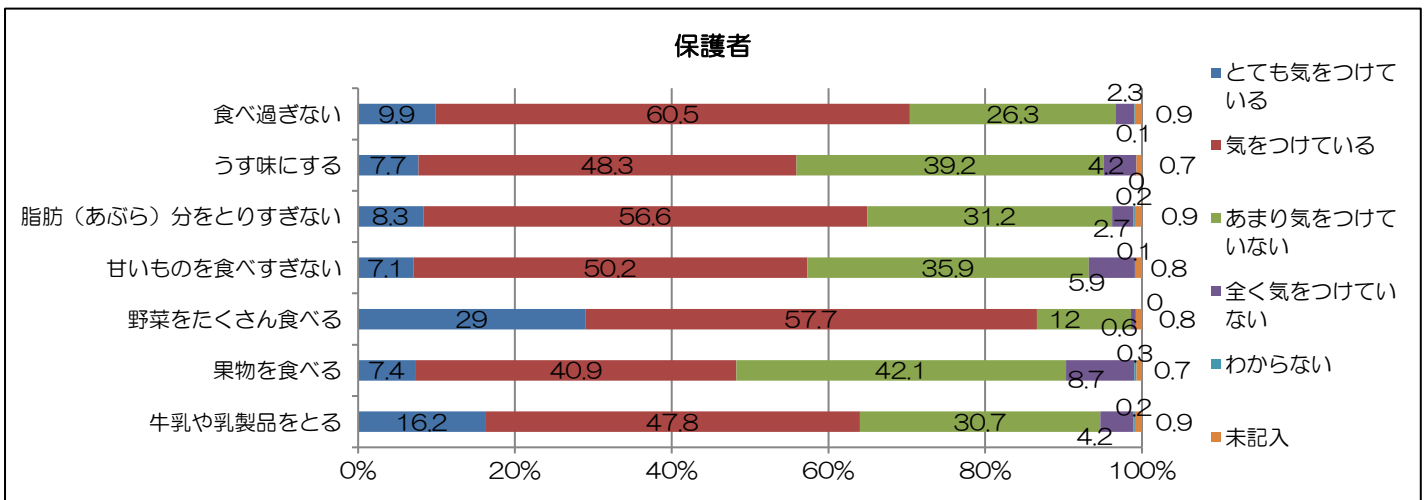
ゆっくりよく噛んで食べるために必要なことは何ですか。当てはまるものをいくつでも選んでください。

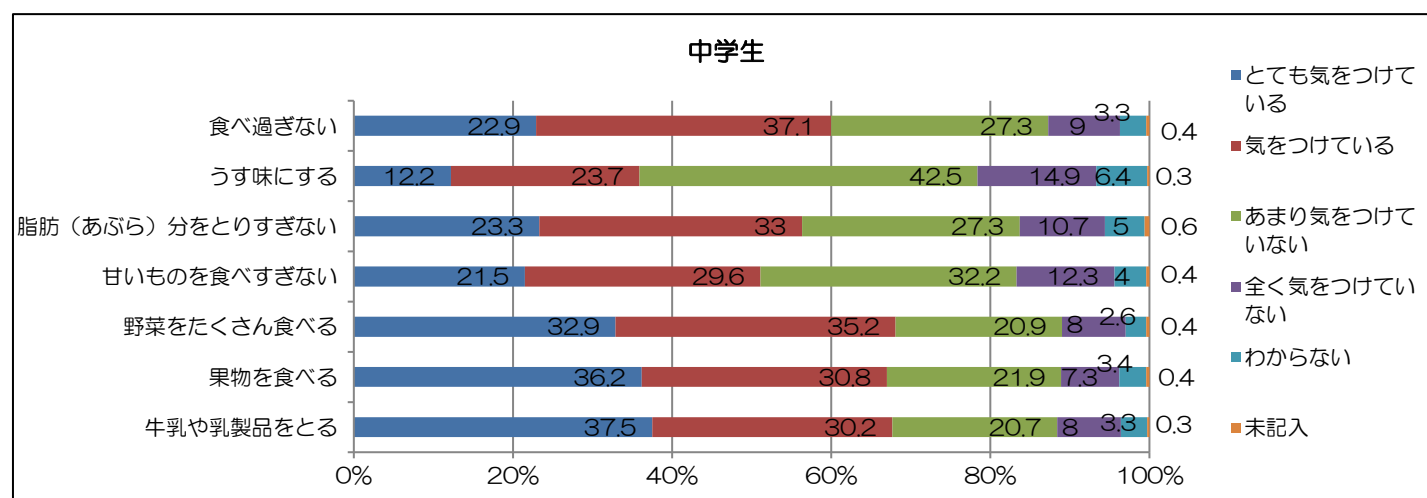
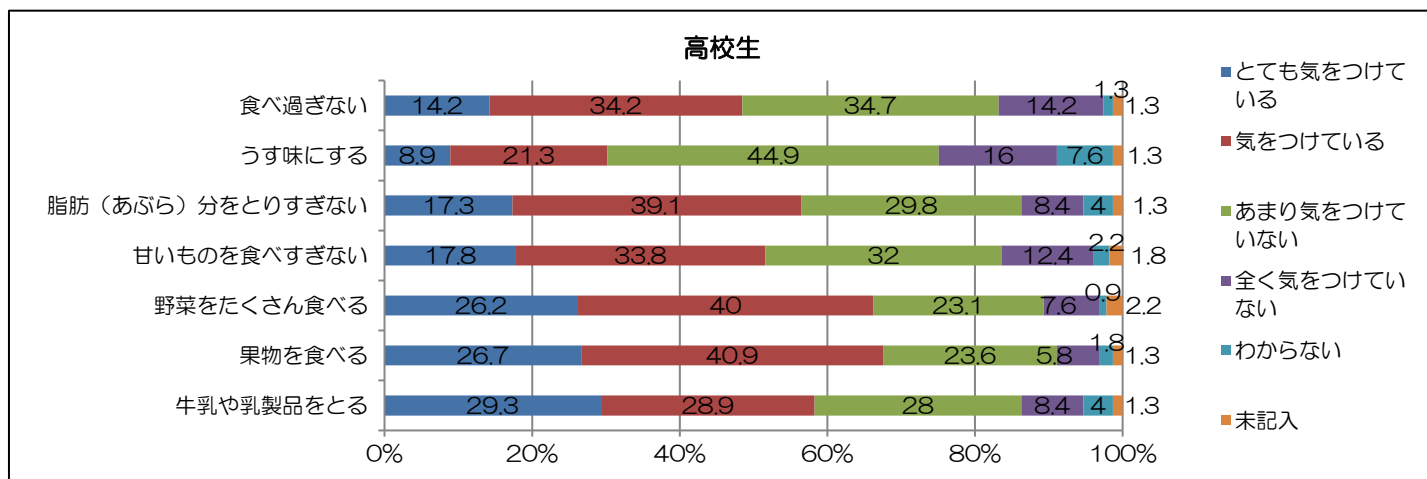
※小学生は問8。中学生、高校生は問11。



どの年代でも、ゆっくりよく噛んで食べるために十分な時間がない状況にあることが伺える。「ゆっくりよく噛んで食べるためのメリット」を知り、「誰かと一緒に食事をする」共食の機会を増やすことが重要ではないかと考える。

【問13】あなたは、自分の健康維持・増進のための食事のとり方についてどの程度気をつけていますか。もっとも当てはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。





各年代とも、「食べすぎない」「野菜をたくさん食べる」に気をつけているが、「うす味にする」ことに気をつける人が少ない状況であった。自分のからだや自分にあっとうす味や減塩の実際を知り体験することが重要。学校給食や家庭でうす味の食事環境となることが重要。

健やかプラン21市民意識調査では「野菜を1日2回以上食べる市民」が57.9%であった。食育アンケートでは「野菜をたくさん食べる」よう気をつけている保護者が86.7%。食育アンケートの保護者の回答者の93.4%が女性であったため高値となったと想定される。

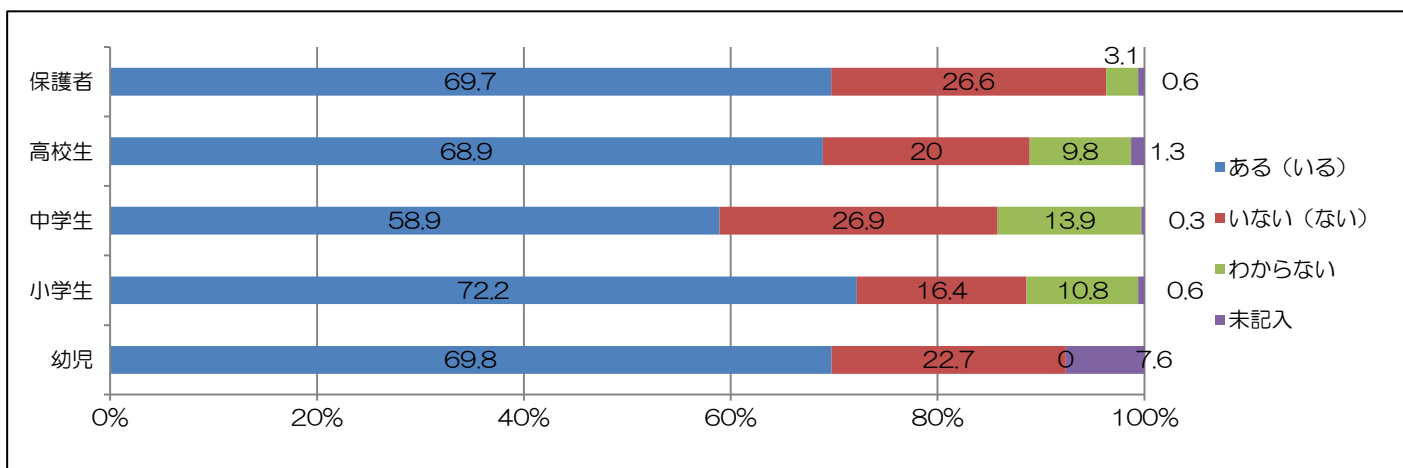
農林漁業体験について

【問14】 あなたは又はあなたの家族の中で、農林漁業体験に参加したことがある人はいますか。

(○印はひとつ)

%

	ある(いる)	いない(ない)	わからない	未記入
保護者	69.7 (739人)	26.6 (282人)	3.1 (33人)	0.6 (6人)
高校生	68.9 (155人)	20 (45人)	9.8 (22人)	1.3 (3人)
中学生	58.9 (412人)	26.9 (188人)	13.9 (97人)	0.3 (2人)
小学生	72.2 (234人)	16.4 (53人)	10.8 (35人)	0.6 (2人)
幼児	69.8 (157人)	22.7 (51人)	0	7.6 (17人)



国の目標値は40%以上、県の目標は55%以上に設定されているが、国36.3%、県49.1%で達成できていない。この度の食育アンケートでは、69.7%が農林漁業体験をしたことがあると回答した。保育所、学校等で農園やプランター栽培などを行っていることなども高い数値であることが想定される。学校等の菜園、農園を中心とした地域一体となった食育により「食育5つの力」仕組みづくりなどの検討が望まれる。

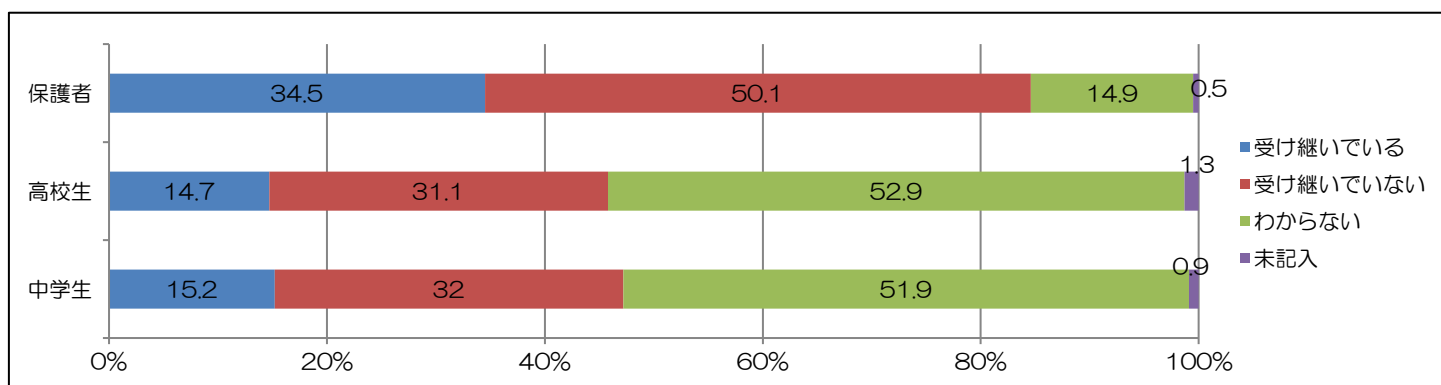
食文化について

【問15】 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味を地域や家庭で受け継いでいますか。（○印はひとつ）

※中学生、高校生は問14。

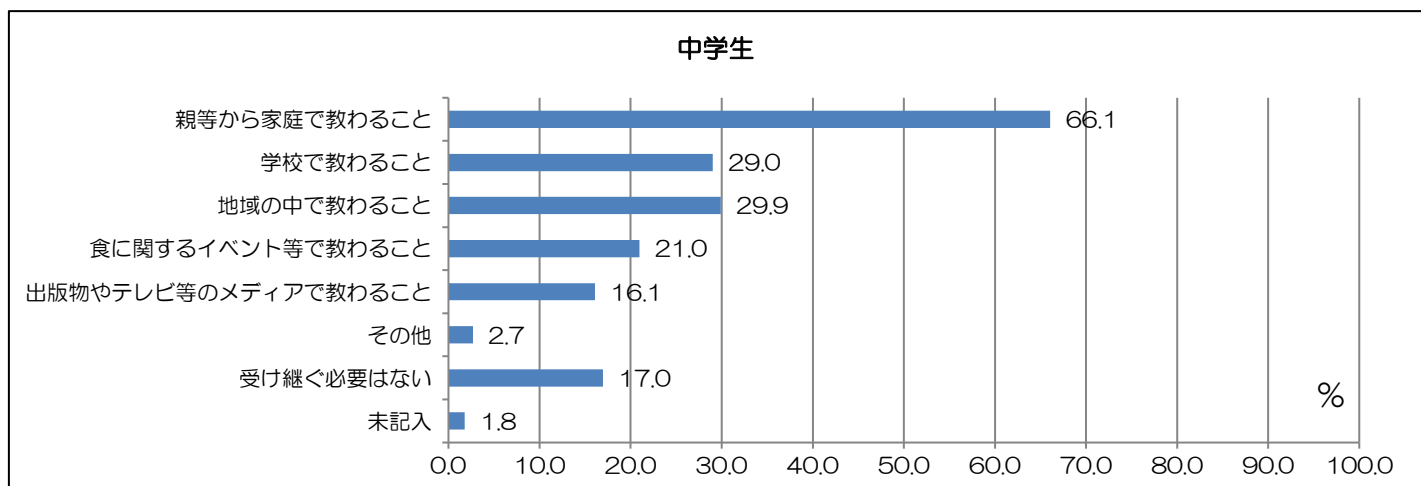
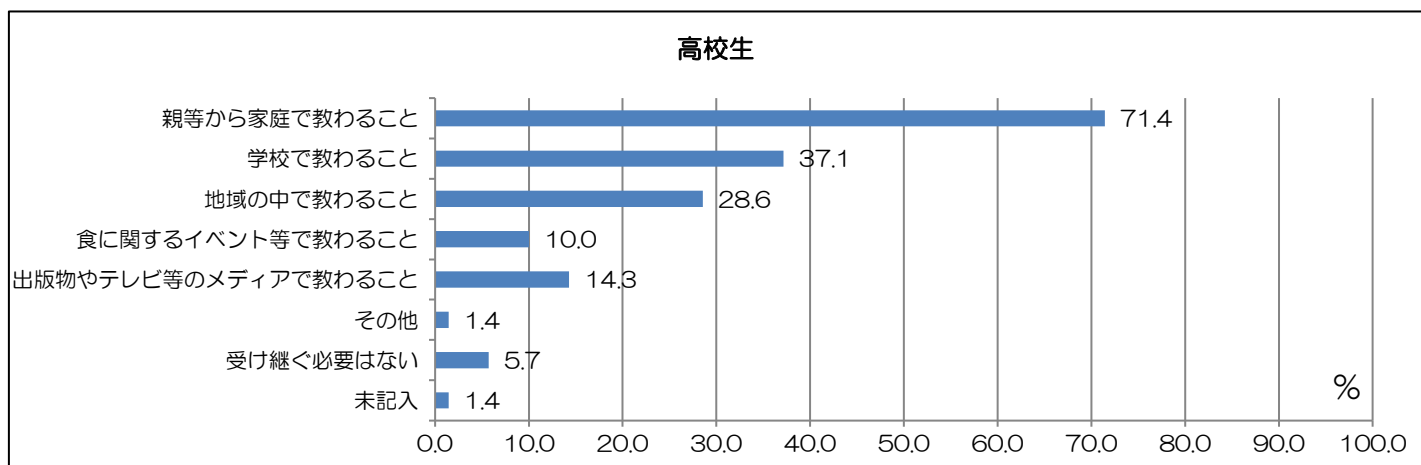
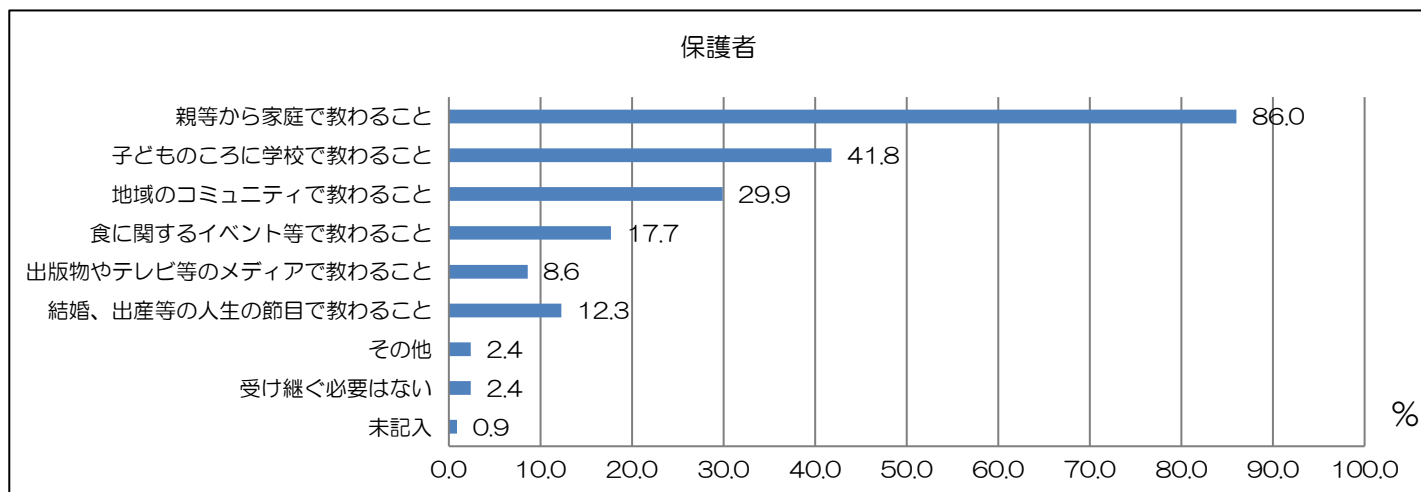
%

	受け継いでいる	受け継いでいない	わからない	未記入
保護者	34.5 (366人)	50.1 (531人)	14.9 (158人)	0.5 (5人)
高校生	14.7 (33人)	31.1 (70人)	52.9 (119人)	1.3 (3人)
中学生	15.2 (106人)	32.0 (224人)	51.9 (363人)	0.9 (6人)



【問16】問15で「2」と回答した方にお聞きします。

あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味を受け継いでいくためには、どのようなことが必要だと思いますか。当てはまるものをいくつでも選んでください。

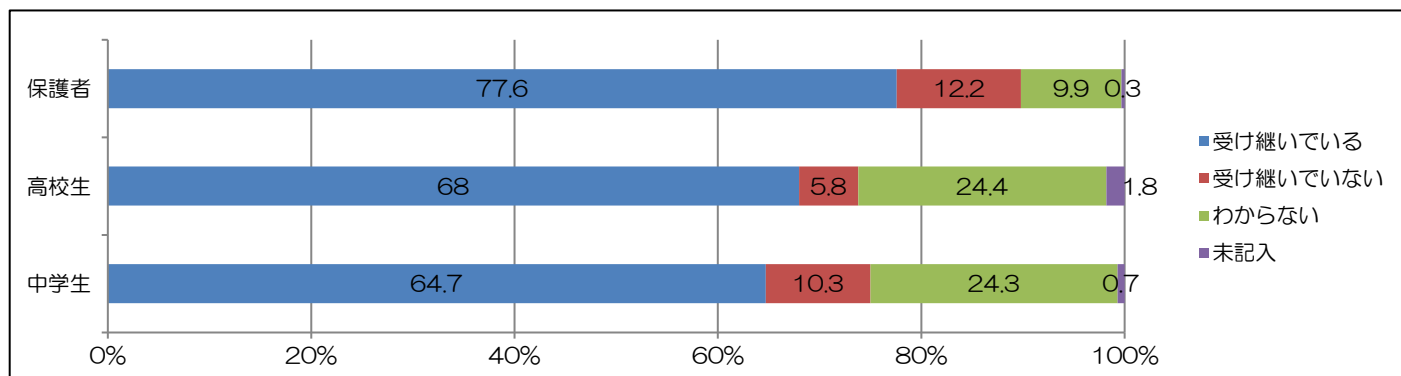


【問17】 あなたは、箸づかいなどの食べ方・作法を地域や家庭で受け継いでいますか。(〇印は1つ)

※中学生、高校生は問16。

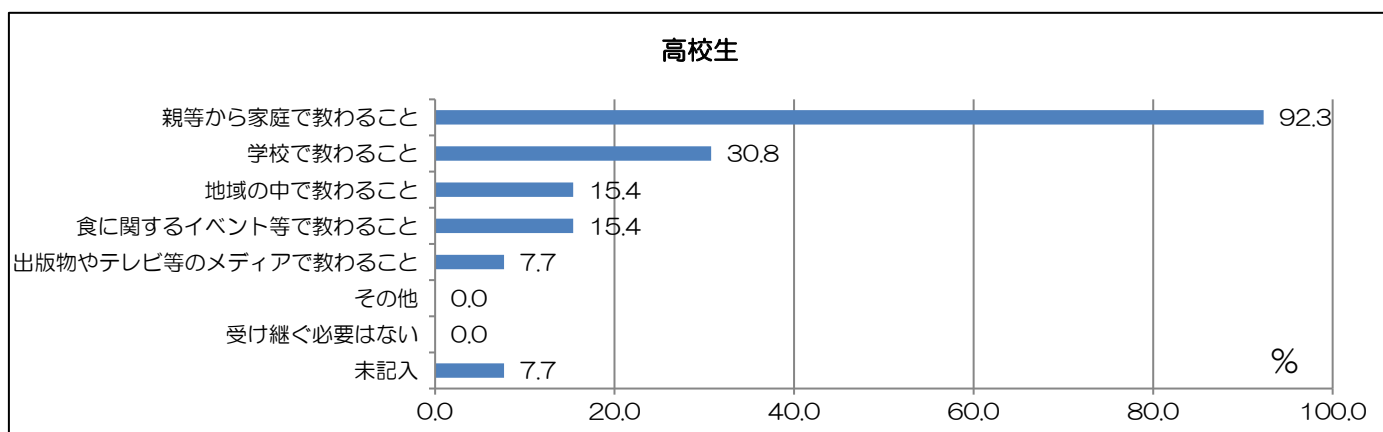
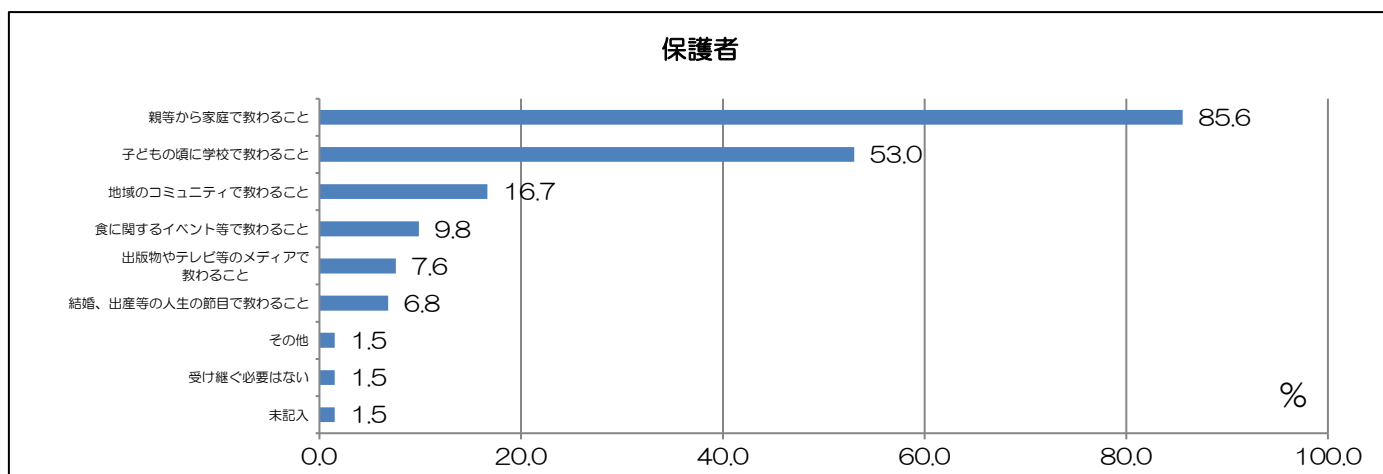
%

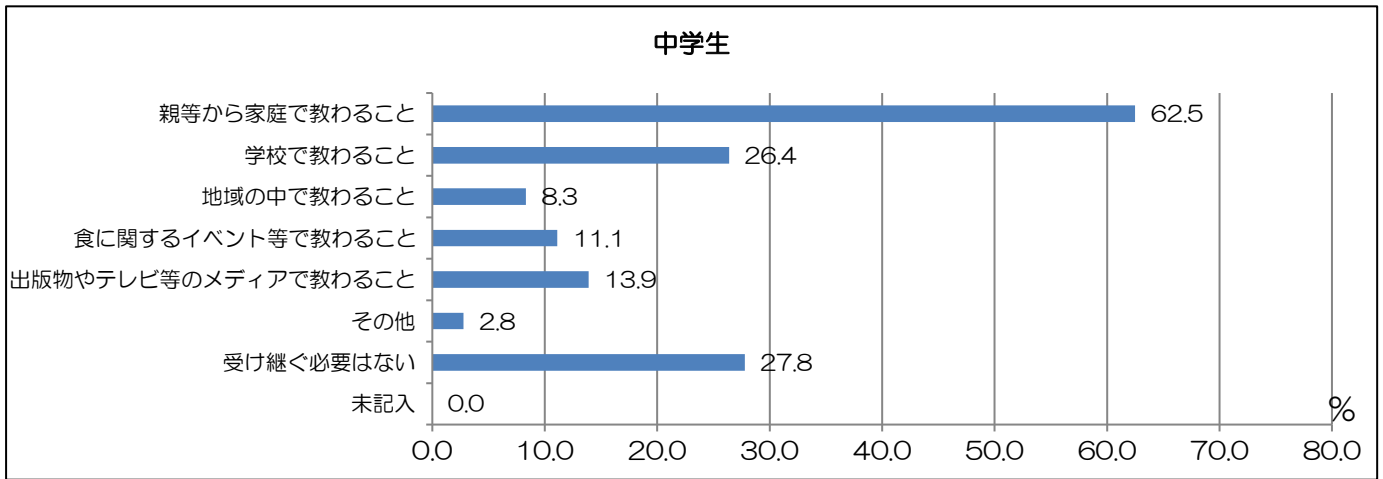
	受け継いでいる	受け継いでいない	わからない	未記入
保護者	77.6 (823人)	12.2 (129人)	9.9 (105人)	0.3 (3人)
高校生	68 (153人)	5.8 (13人)	24.4 (55人)	1.8 (4人)
中学生	64.7 (452人)	10.3 (72人)	24.3 (170人)	0.7 (5人)



【問18】 問17で「2」と回答した方にお聞きします。

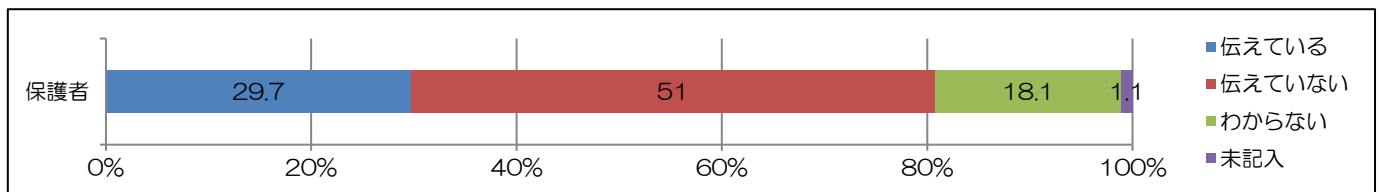
あなたは、箸使いなどの食べ方・作法を、地域や家庭で受け継ぐためには、どのようなことが必要だと思いますか。当てはまるものをいくつでも選んでください。





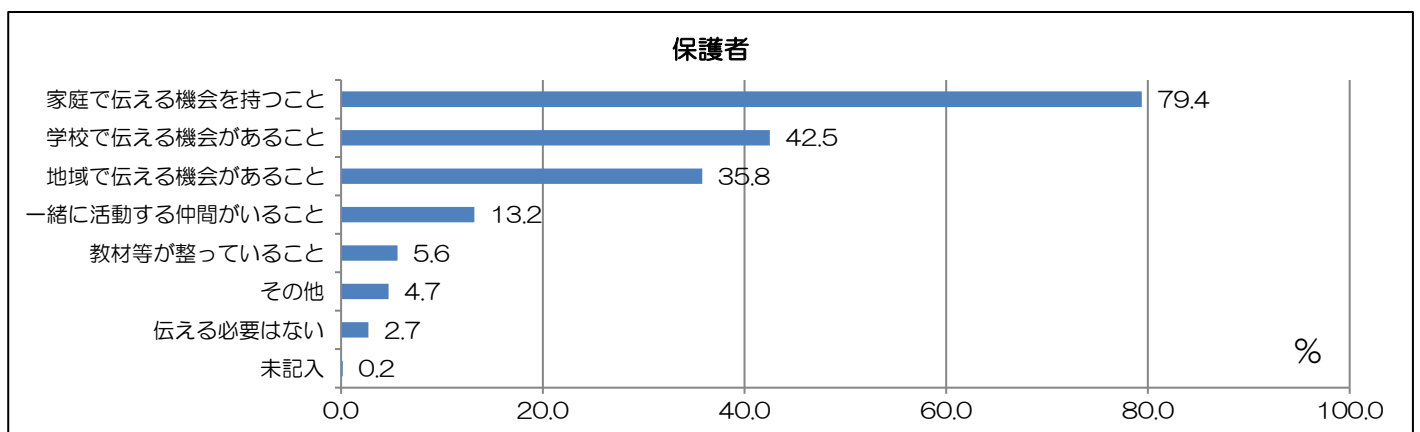
【問19】あなたが、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭において受け継いできた料理や味を、地域や次世代（子どもやお孫さんを含む）に対し伝えていますか。（〇印はひとつ）

	伝えている	伝えていない	わからない	未記入
保護者	29.7 (315人)	51 (541人)	18.1 (192人)	1.1 (12人)



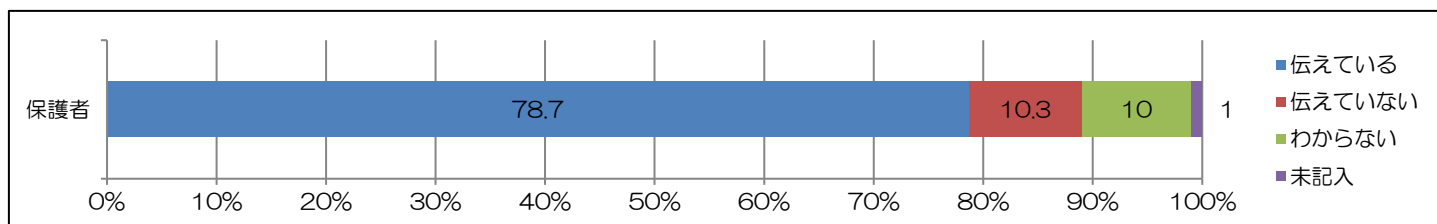
【問20】 問19で、「2」と回答した方にお聞きします。

あなたが、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭において受け継いできた料理や味を、地域や次世代（子どもやお孫さんを含む）に対して伝えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。当てはまるものをいくつでも選んでください。



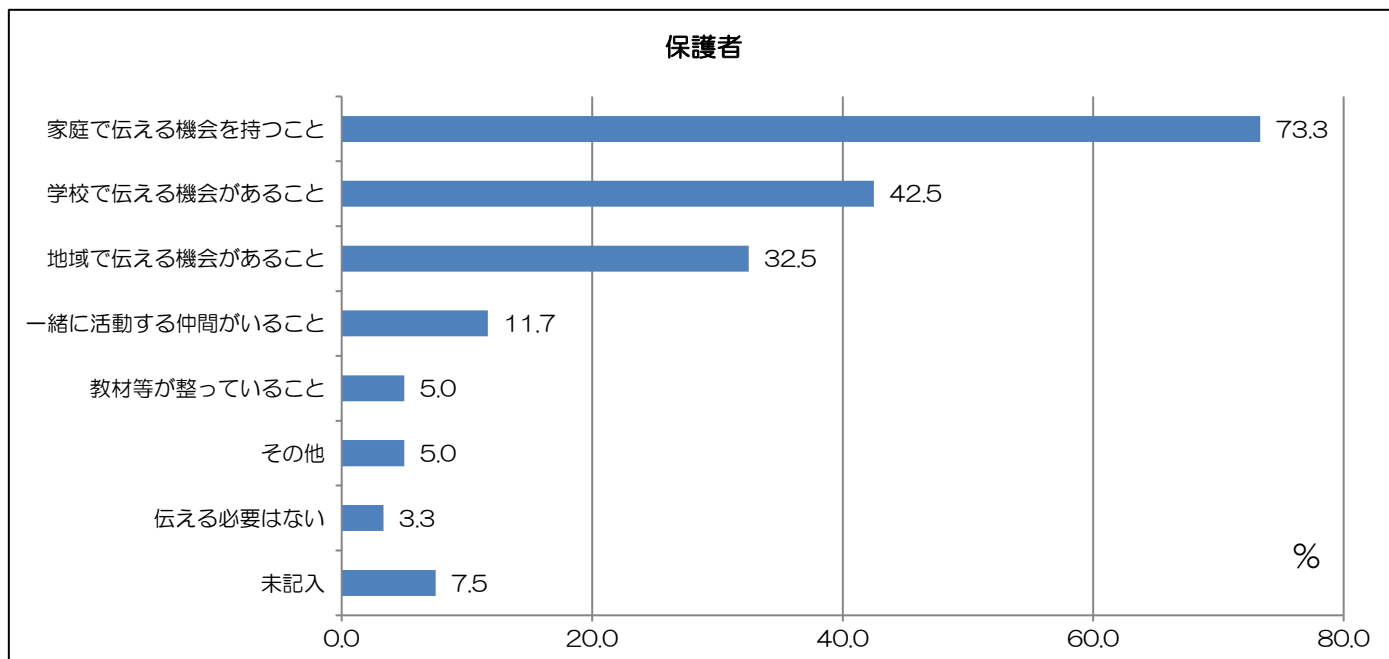
【問21】 あなたが、地域や家庭において受け継いできた箸づかいなどの食べ方・作法を、地域や次世代（子どもやお孫さんを含む）に対し伝えていますか。（〇印はひとつ） %

	伝えている	伝えていない	わからない	未記入
保護者	78.7 (834人)	10.3 (109人)	10 (106人)	1 (11人)



【問22】 問21で、「2」と回答した方にお聞きします。

あなたが、地域や家庭において受け継いできた箸づかいなどの食べ方・作法を、地域や次世代（子どもやお孫さんを含む）に対して伝えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。当てはまるものをいくつでも選んでください。



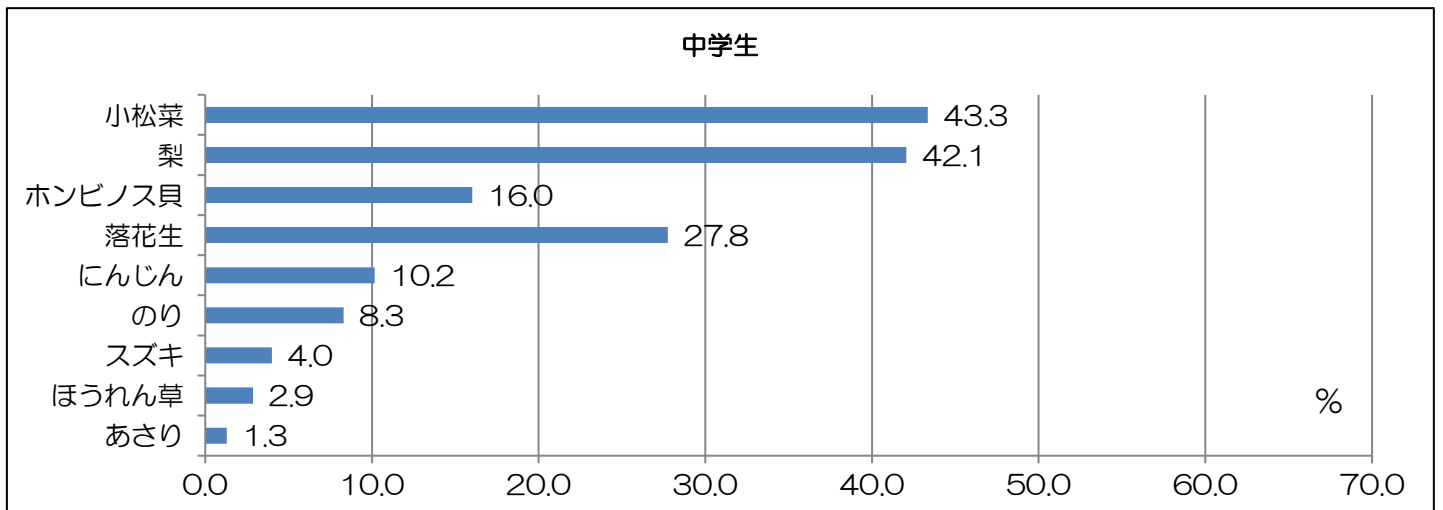
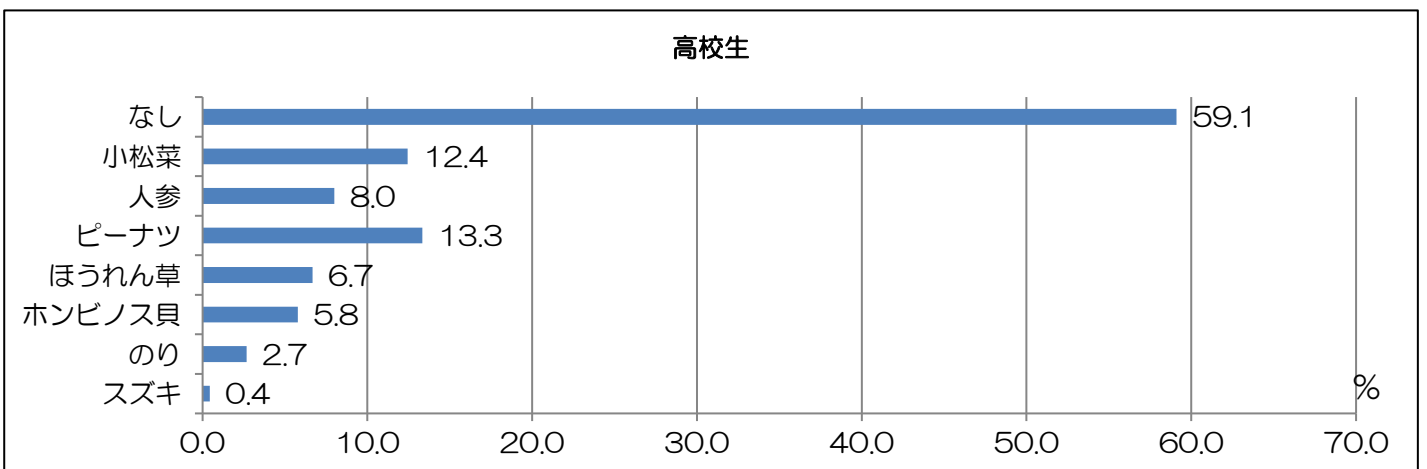
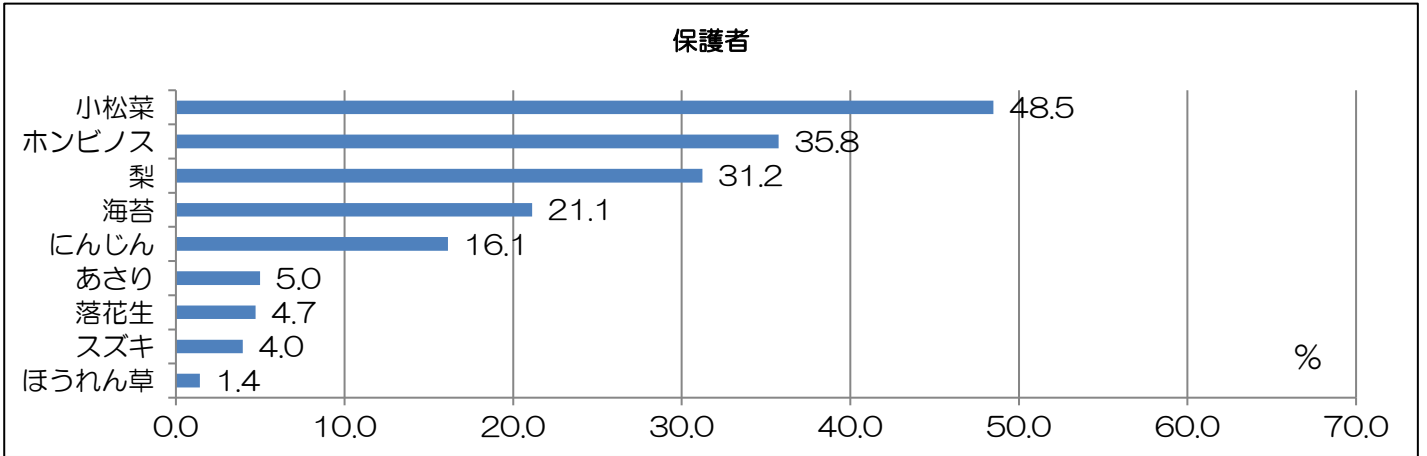
「郷土料理や伝統料理などを地域や家庭で受け継いでいない」保護者は 50.1%。「伝えていない」と答えた保護者 51%。受け継ぐためには「親等から家庭で教わること」が必要と考えている人は 86%であった。

国の目標値は「料理や味、箸づかいなどの食べ方や作法を伝えている人」50%としているが、食育アンケートでは「料理や味を伝えている」29.7%、「食べ方や作法を伝えている」78.7%であった。

※食育アンケートでは、「料理や味」「食べ方や作法」を分けた設問としたため、数値の比較はできない。

中・高校生では、「受け継いでいるかわからない」と答えた人が、中学生 51.9%、高校生 52.9%。何を伝え受け継ぐかが保護者世代や子どもが明確に理解できていないのではないかと考えられる。

【問23】あなたが、船橋らしいと思う食品や料理は何ですか。いくつでも記載ください。



中学生は、小学校在学中から食育により、船橋産農水産物に親しんでいることから「小松菜」「梨」などの認知が高いと思われる。

高校生は、市外からの在校生が60%と多く、船橋産農水産物についての認識が低いと思われる。

食の安全性について

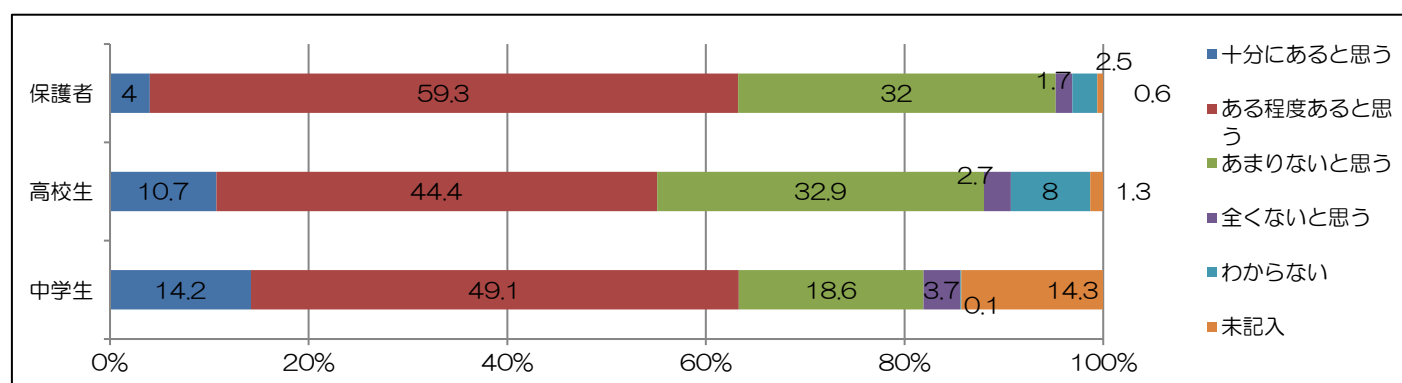
【問24】あなたは、安全な食生活を送るための食品の、食品の安全性に関する基本的な知識があると思いますか。

(○印はひとつ)

※中学生、高校生は問20。

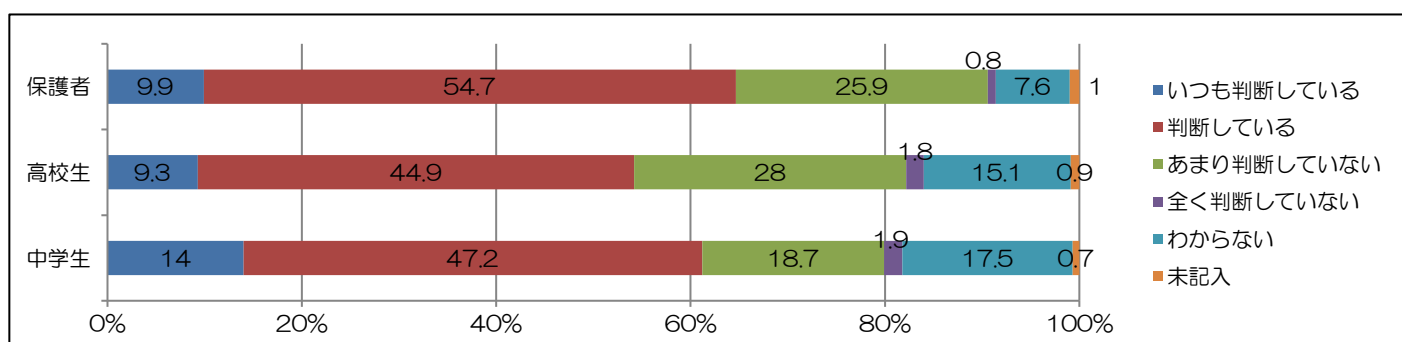
%

	十分にあると思う	ある程度あると思う	あまりないと思う	全くないと思う	わからない	未記入
保護者	4 (42人)	59.3 (629人)	32 (339人)	1.7 (18人)	2.5 (26人)	0.6 (6人)
高校生	10.7 (24人)	44.4 (100人)	32.9 (74人)	2.7 (6人)	8 (18人)	1.3 (3人)
中学生	14.2 (99人)	49.1 (343人)	18.6 (130人)	3.7 (26人)	0.1 (1人)	14.3 (100人)



【問25】あなたは、安全な食生活を送ることについてどの程度判断していますか。(○印はひとつ) %

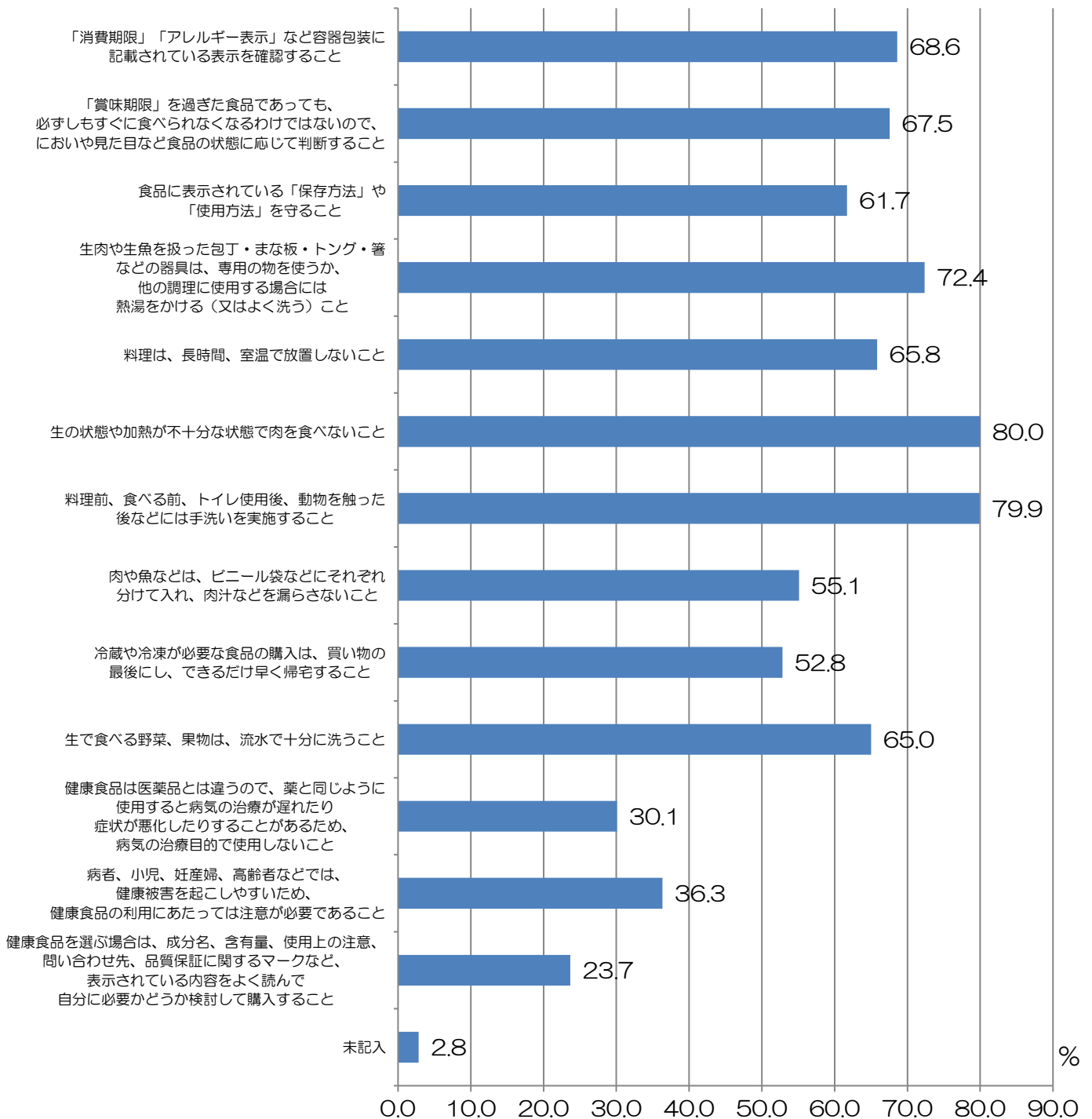
	いつも判断している	判断している	あまり判断していない	全く判断していない	わからない	未記入
保護者	9.9 (105人)	54.7 (580人)	25.9 (275人)	0.8 (8人)	7.6 (81人)	1 (11人)
高校生	9.3 (21人)	44.9 (101人)	28 (63人)	1.8 (4人)	15.1 (34人)	0.9 (2人)
中学生	14 (98人)	47.2 (330人)	18.7 (131人)	1.9 (13人)	17.5 (122人)	0.7 (5人)



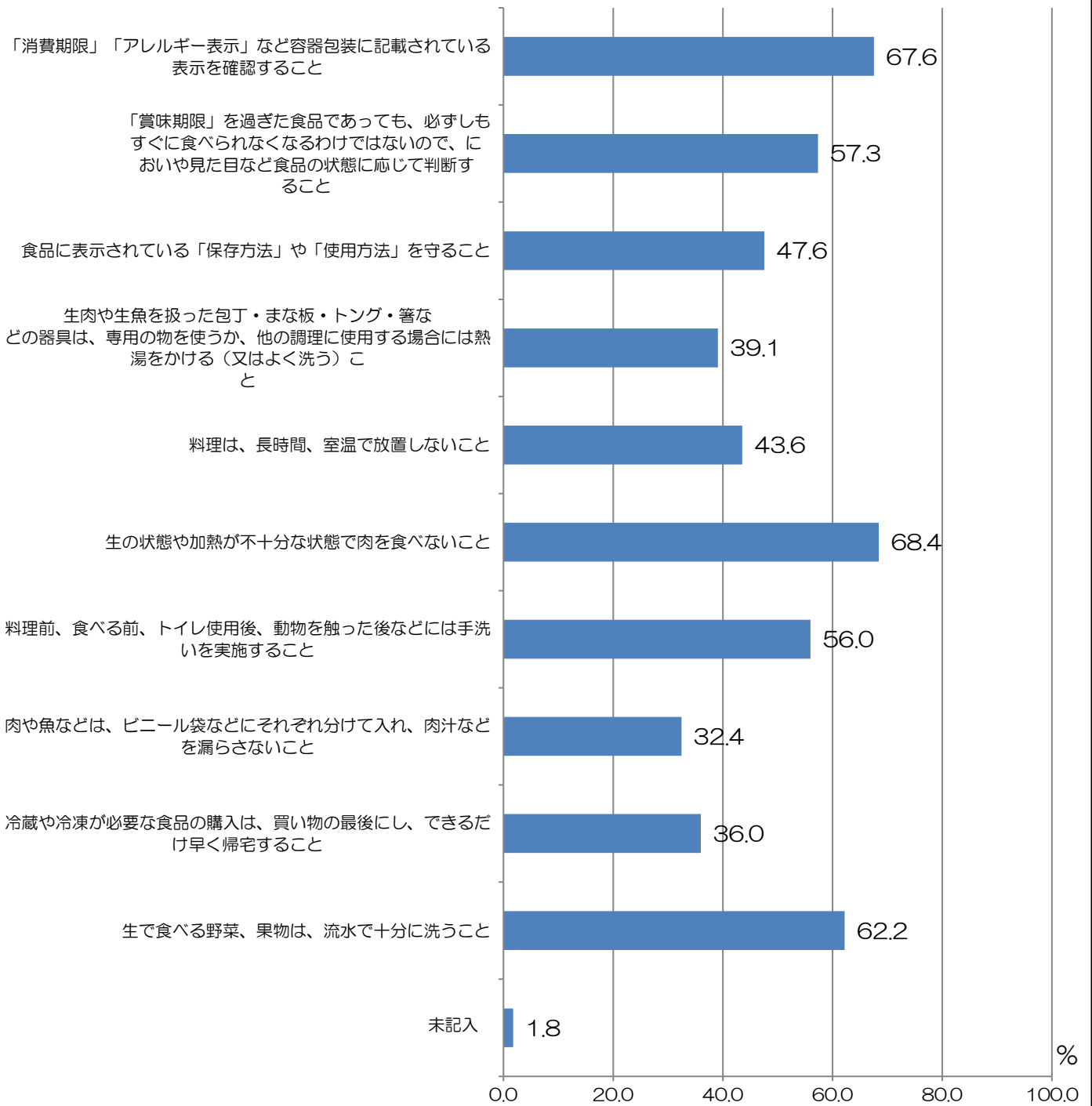
国の「安全性について基礎的な知識を持ち自ら判断する人」は 72.4%で目標 80%には至っていない。食育アンケートでは、食品の安全性について基礎的な知識がある人は 63.3%、安全な食生活を送るための判断をしている人は 64.6%で、国の現状値よりも低い状況である。

【問26】あなたは、安全な食生活を送るためのポイントとして、以下のどの項目を意識しますか。当てはまるものをいくつでも選んでください。

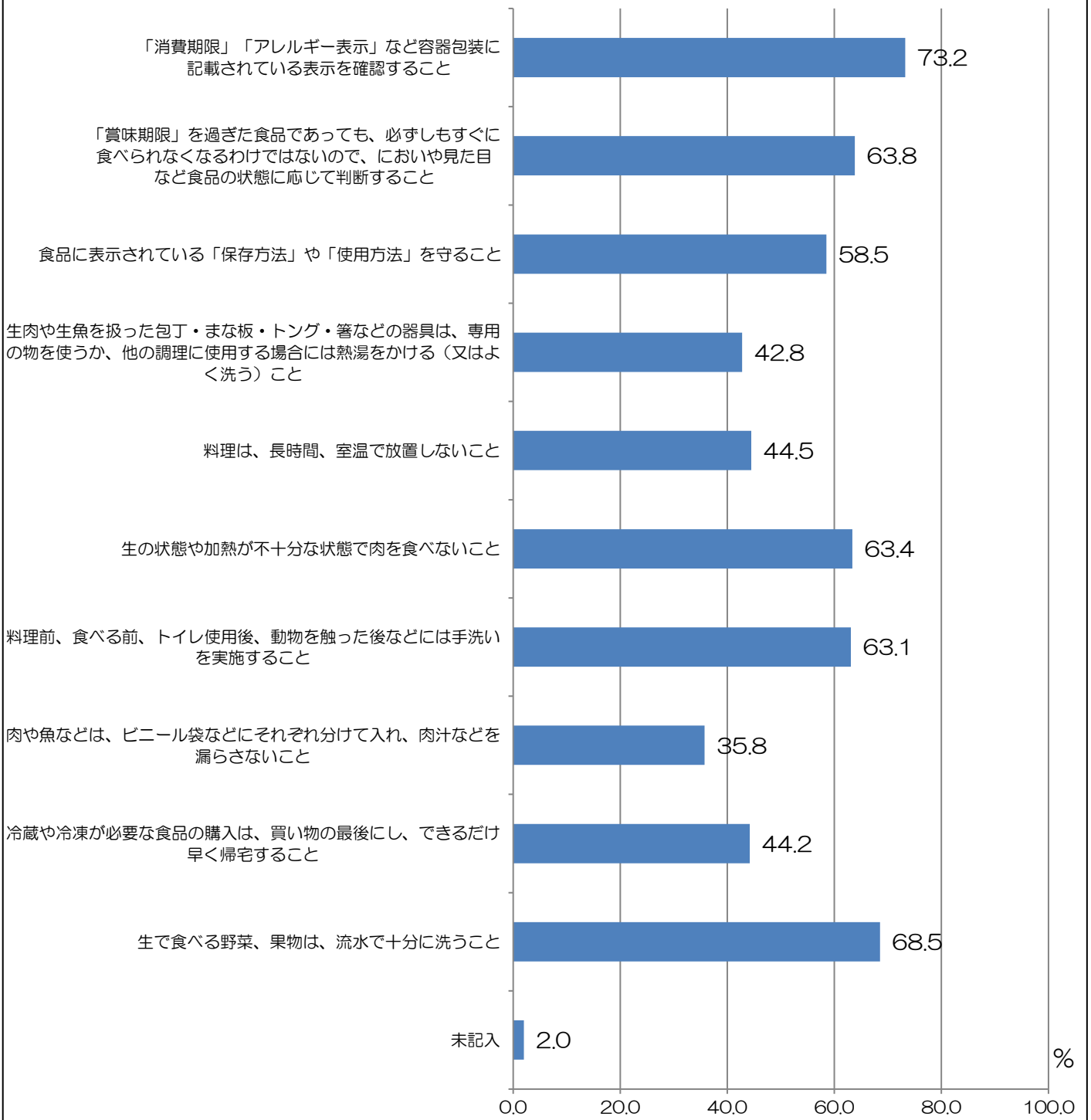
保護者



高校生

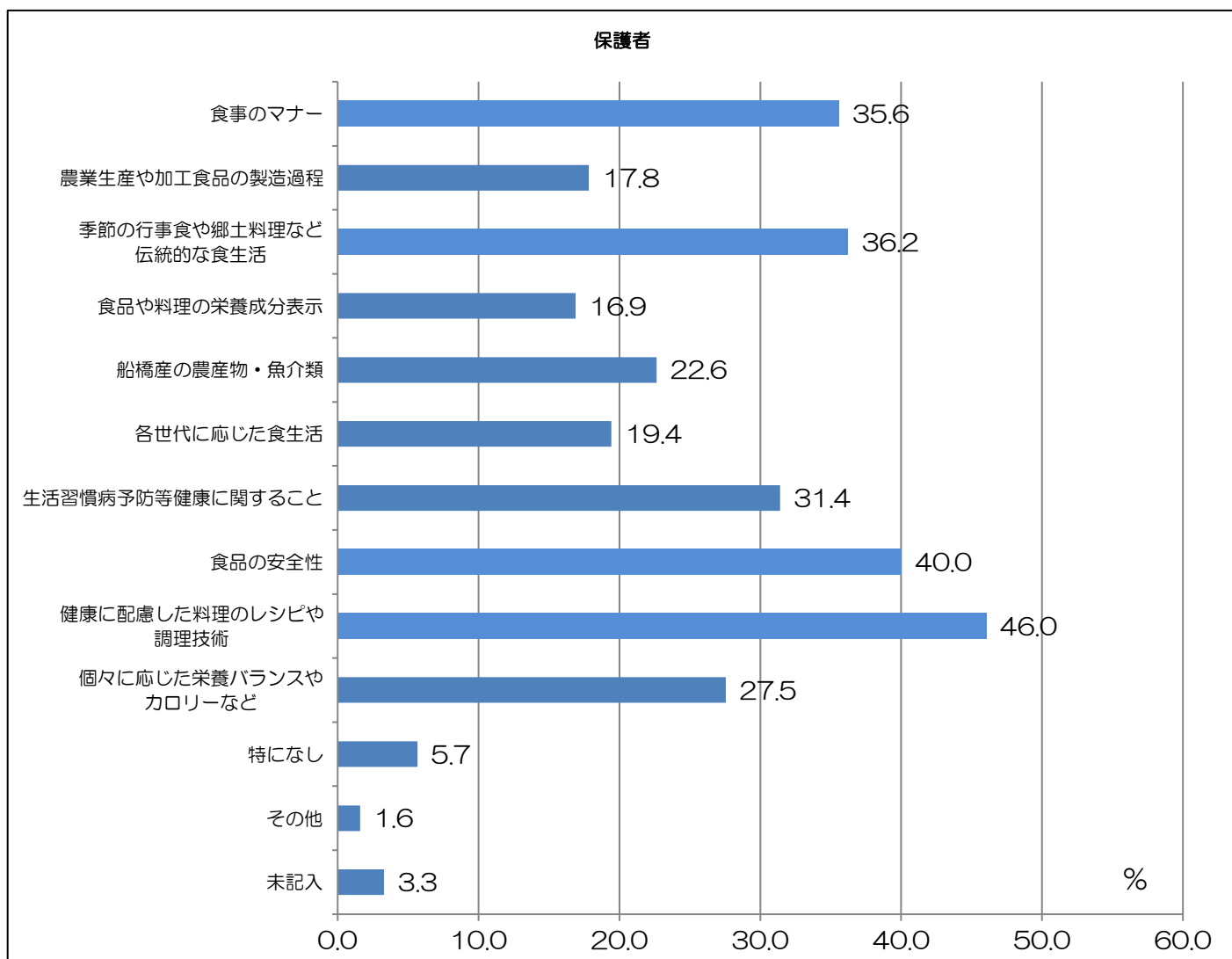


中学生

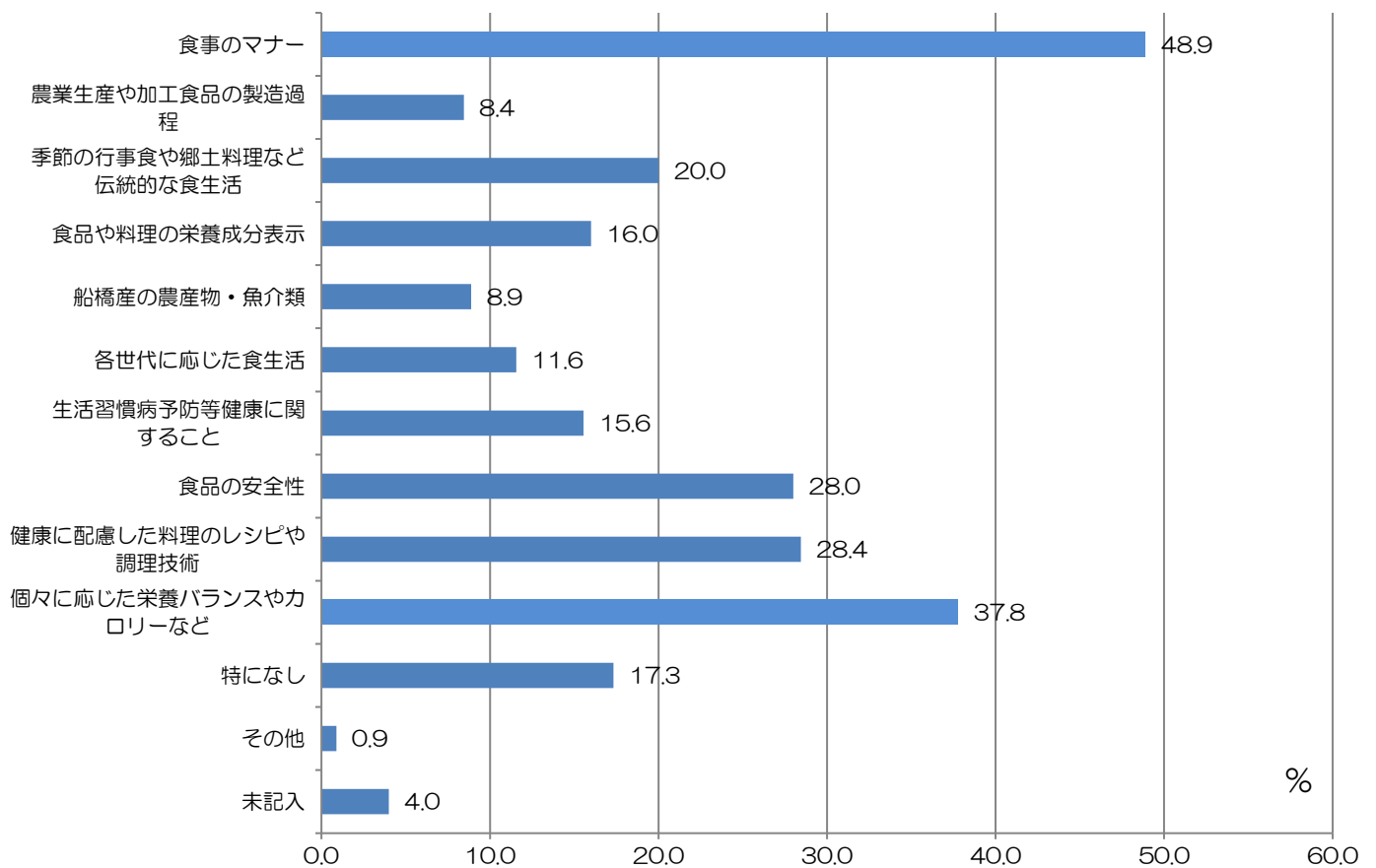


食の情報・取り組みについて

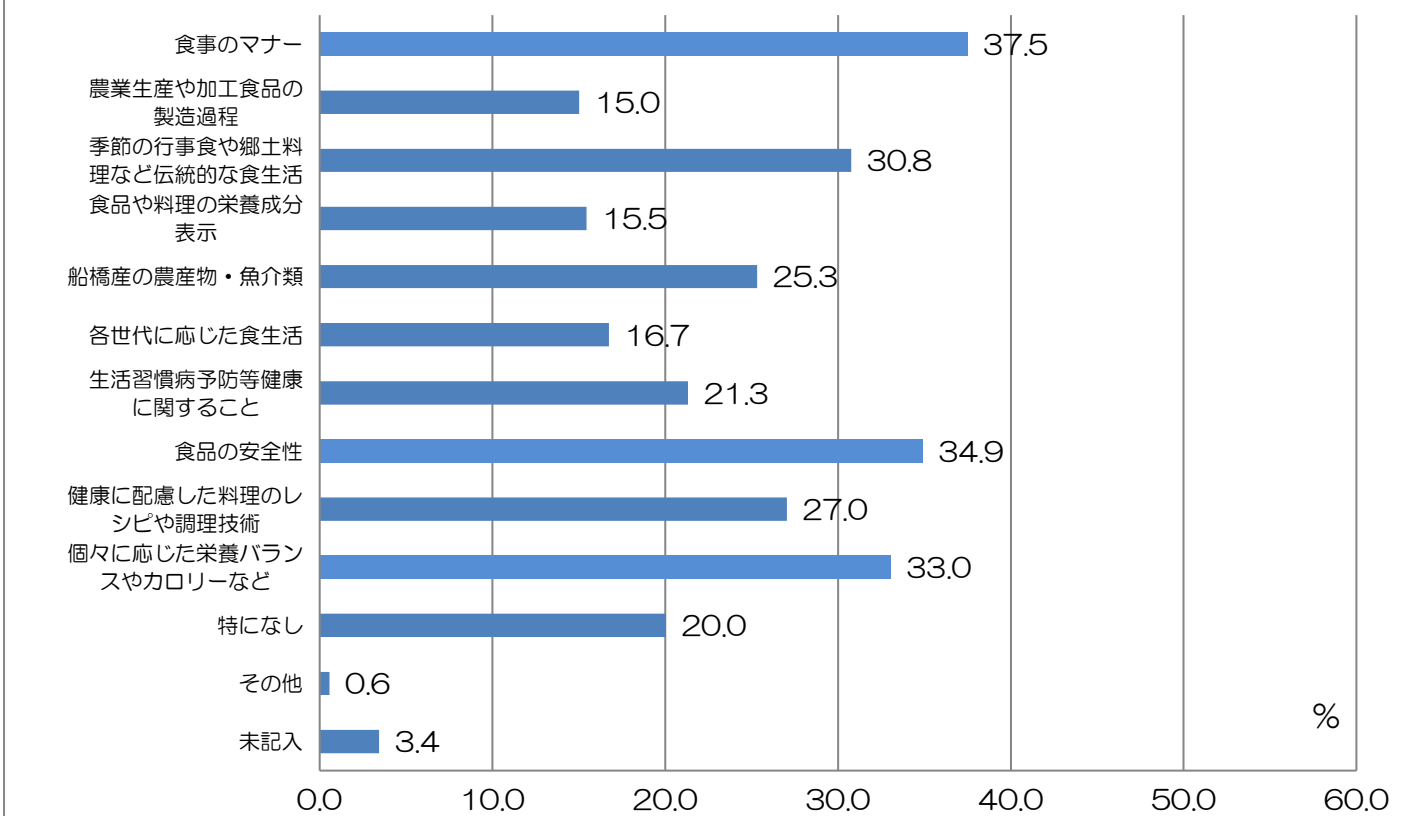
【問27】 食や食育に関して知りたい情報は何か。当てはまるものをいくつでも選んでください。



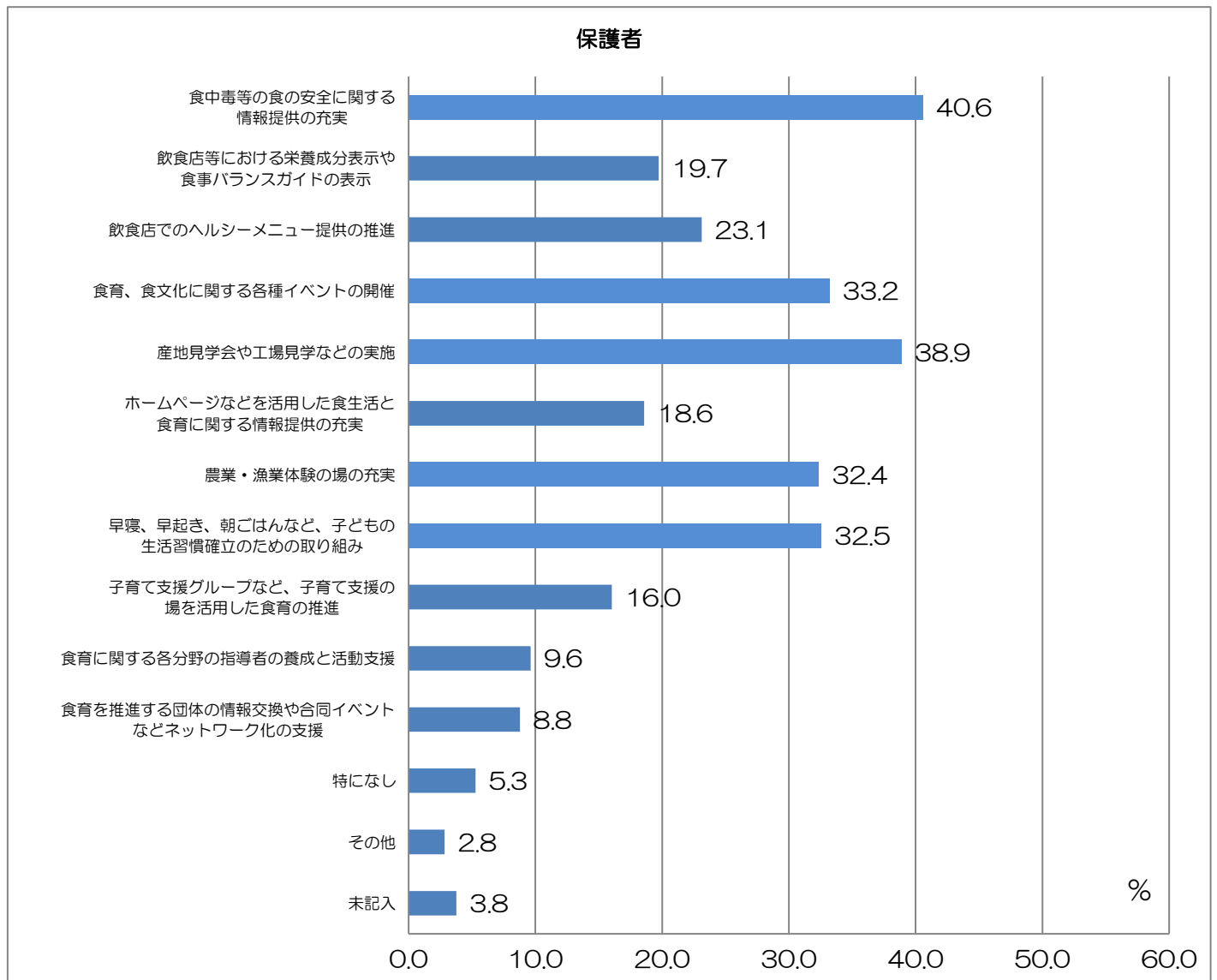
高校生



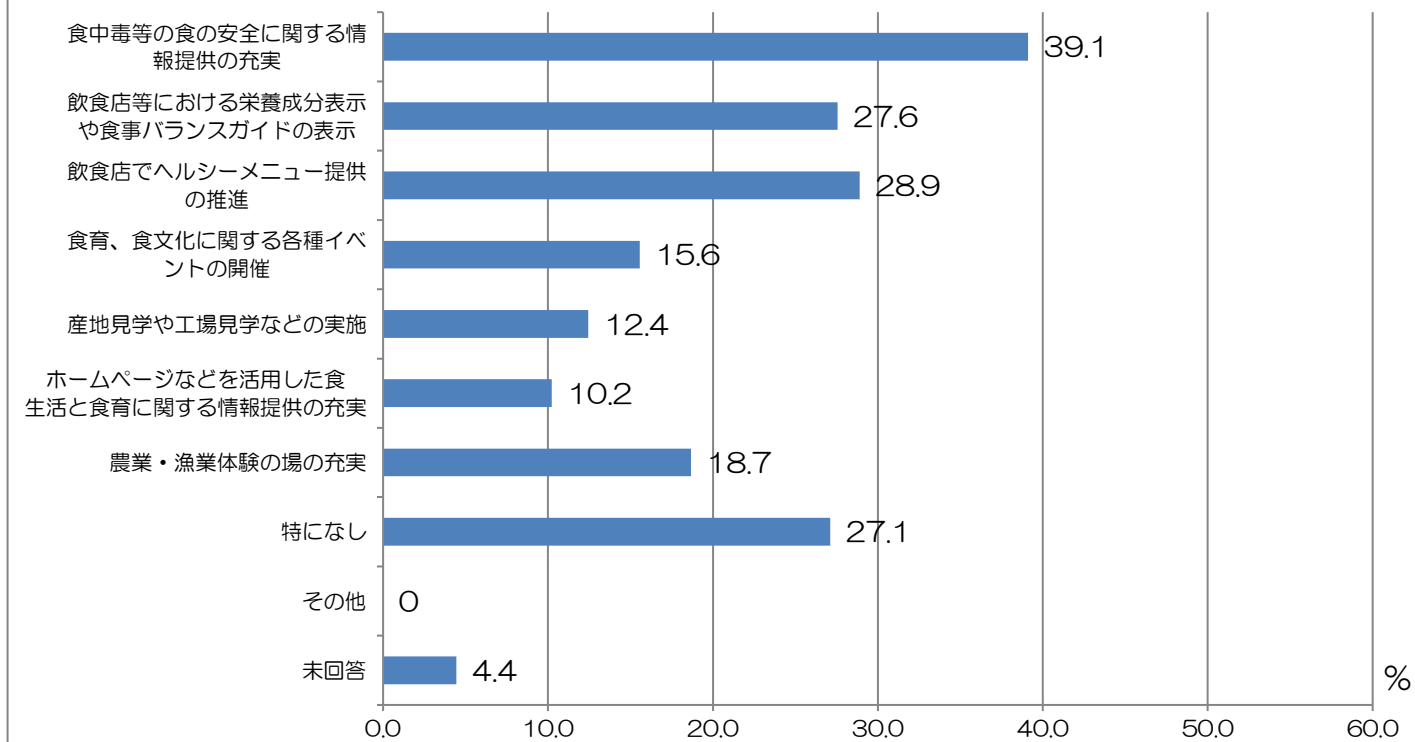
中学生



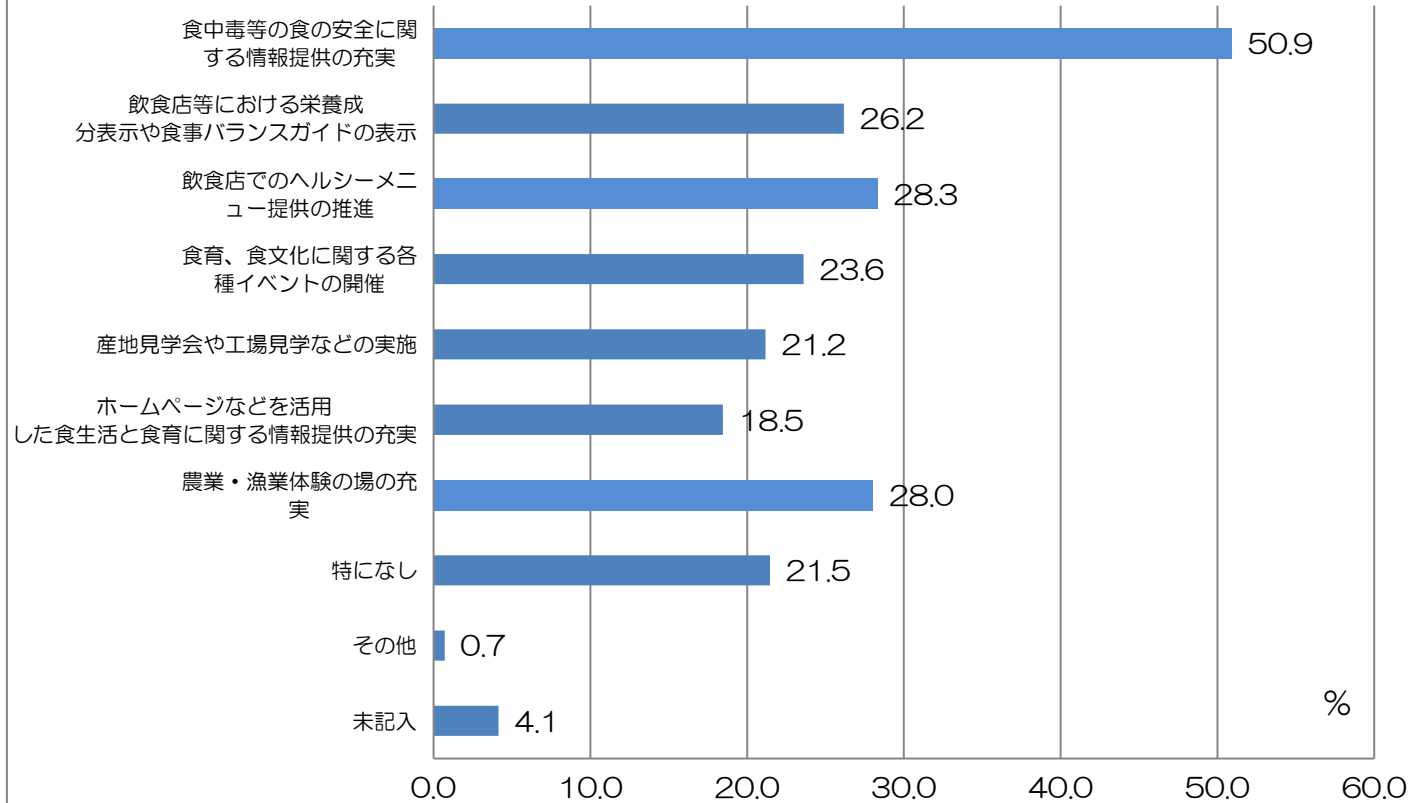
【問28】健全で豊かな食生活の実現に向けて食育を推進するためには、船橋市でどのようなことに重点的に取り組んでほしいですか。当てはまるものをいくつでも選んでください。



高校生



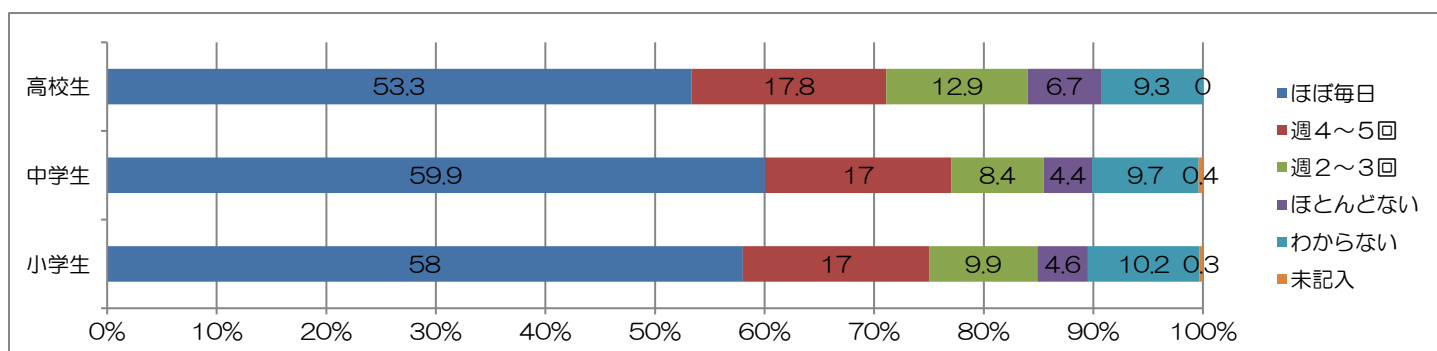
中学生



高校生・中学生・小学生のみの設問

【問8】主食（ごはん、パン、麺など）、主菜（肉、魚、卵、大豆製品などを使ったメインの料理）、副菜（野菜、きのこ、いも、海藻などを使った小鉢・小皿料理）をそろえて食べることが1日2回以上あるのは週に何日ありますか。 ※小学生は問5。 %

	ほぼ毎日	週4～5日	週2～3回	ほとんどない	わからない	未記入
高校生	53.3 (120人)	17.8 (40人)	12.9 (29人)	6.7 (15人)	9.3人 (21人)	0
中学生	59.9 (419人)	17.0 (119人)	8.4 (59人)	4.4 (31人)	9.7 (68人)	0.4 (3人)
小学生	58.0 (188人)	17.0 (55人)	9.9 (32人)	4.6 (15人)	10.2 (33人)	0.3 (1人)



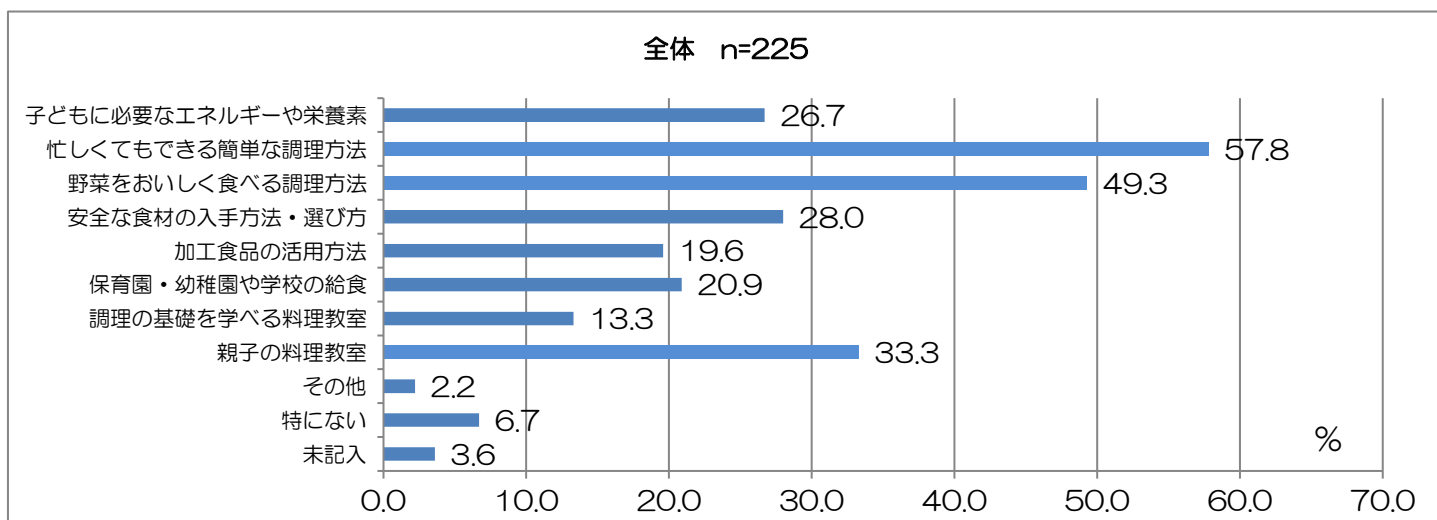
国の目標値（成人）は70%以上だが現状値は58.1%。食育アンケート結果では71.1%で国の目標を達成している。

食育アンケートでは、小、中、高校生に聞き、「主食・主菜・副菜」を意識して食べる者は60%未満であった。

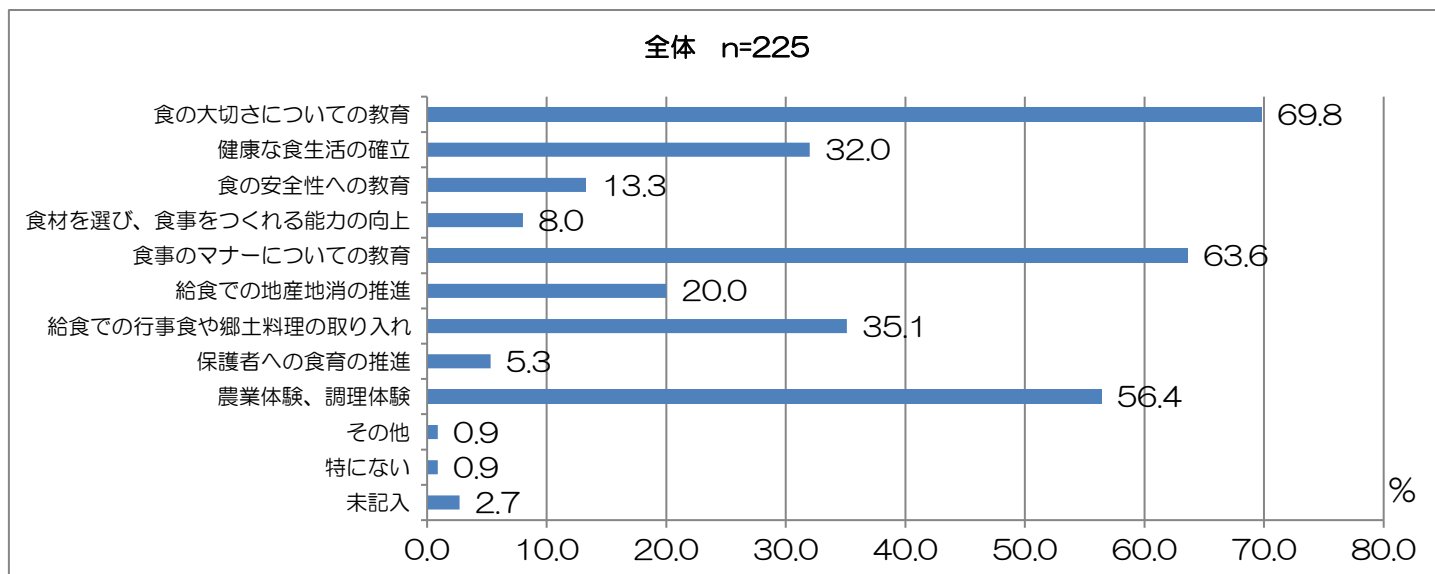
「料理の組み合わせ方」「選び方」「食べ方」の総合的なアプローチが必要である。

幼児保護者のみの設問

【問7】お子さんの食育のために、知りたいこと、参加してみたいこと（知りたかったこと、参加したかったこと）はありますか。当てはまるものをいくつでも選んでください。



【問8】幼稚園での食育にどのようなことを望みますか。当てはまるものをいくつでも選んでください。



船橋市保健所 地域保健課

〒273-8506 船橋市北本町 1-16-55

電 話 047-409-3274

F A X 047-409-2914

e-mail chiikihoken@city.funabashi.g.jp

令和2年1月